柏市観光基本計画
（案）

柏市

（平成２６年１月）

目　次

第 1 章　観光計画の基本的な考え方

1-1　計画の策定目的 1

1-2　計画の位置付け 1

1-3　計画の推進期間 1

1-4　計画策定の背景 3

1－4－1　我が国の観光動向 3

1－4－2　千葉県の観光動向 4

第 2 章　観光を取り巻く環境と動向

2-1　柏市における観光動向 6

2－1－1　柏市の概況と観光動向 6

2－1－2　柏市の観光における現状 8

2-2　柏市の観光における課題 9

2－2－1　観光に関するアンケート調査結果の概要 9

2－2－2　観光関係事業者へのヒアリング結果の概要 12

2－2－3　アンケート調査及びヒアリング調査結果の考察 13

第 3 章　計画の基本方針と基本施策

3-1　計画の基本方針 17

3-2　施策の進め方 19

3-3　重点地域 19

第 4 章　取組むべき事業（観光推進の方策）

4-1　柏市全域での取組み 21

4-2　柏駅周辺エリアの都市型観光の推進 28

4-3　あけぼの山公園周辺の活用促進 35

4-4　手賀沼周辺エリアの活用促進 41

4-5　柏の葉エリアでのビジネス型観光の強化 47

第 5 章　計画の目標と推進体制

5-1　柏市観光計画の目標 53

5-2　観光振興の推進体制 55

5-3　推進策のスケジュール 55

第１章　観光計画の基本的な考え方

１－１　計画の策定目的

柏市は著名な観光地ではないものの、広域の商業拠点としての存在感・手賀沼周辺の豊かな自然・大消費地に近いことを活かした近郊農業等の各種資源が数多く点在しています。また、歴史文化財や観光施設等で観光客を誘致するだけではなく、商業施設に訪れる買い物客や学会に訪れるビジネス客でまち中が賑わうのも柏市の地域特性だと言えます。

そこで、柏市では集客・誘客に貢献する全ての要素を「観光資源」と捉えて、資源の発掘・見直しを行い、地域特性を活かした観光振興に取組んでいく必要があります。これまで観光振興につながる取組みや事業は、各担当課が遂行してきました。しかし、観光に対する多様化するニーズに応えていくためにも、各担当課の単独事業として遂行するのではなく、関係部署が連携をとりながら「柏市全体が取組むべき課題」という認識を持つことが、施策を実現する上で重要だと考えます。

さらに、各種課題を検証し、民間事業者の参入促進策や観光ツアーの企画立案を位置付けることにより、民間事業者のノウハウの導入や参入が容易となり商業を含めた柏市の活性化につながります。

本計画は、連携体制を強化し、観光資源の魅力を高めて交流人口・昼間人口を増加させ地域経済を活性化することにより、豊かな生活環境の造成を図ることを目的としています。

１－２　計画の位置付け

本計画は次ページに示すように、市の上位計画である「柏市第四次総合計画」（計画期間平成 13 年度～平成 27 年度）と市における産業振興を効果的に推進するために定めた「柏市産業振興戦略プラン」（計画期間平成 23 年度～平成 27 年度）をもとに観光分野において、市の特徴を活かしながら施策を推進していく計画です。

また、各分野別の計画との整合性を図り、共通する目標を掲げ、行政・市民・事業者との協働による観光振興と効率的な計画遂行を図っていきます。（計画体系図は、P.2 掲載）

１－３　計画の推進期間

本計画の対象期間は平成 26 年度から 10 カ年の平成 35 年度までとします。10 年間の推進期間のうち、施策体系ごとに目標期間を短期（3 年）、中期（3～5 年）、長期（5 年以降）と定め、スケジュールにしたがって施策の効果的な実施推進を図ります。

計画開始から 5 年経過後に進捗状況を確認し、事業の見直しを行います。

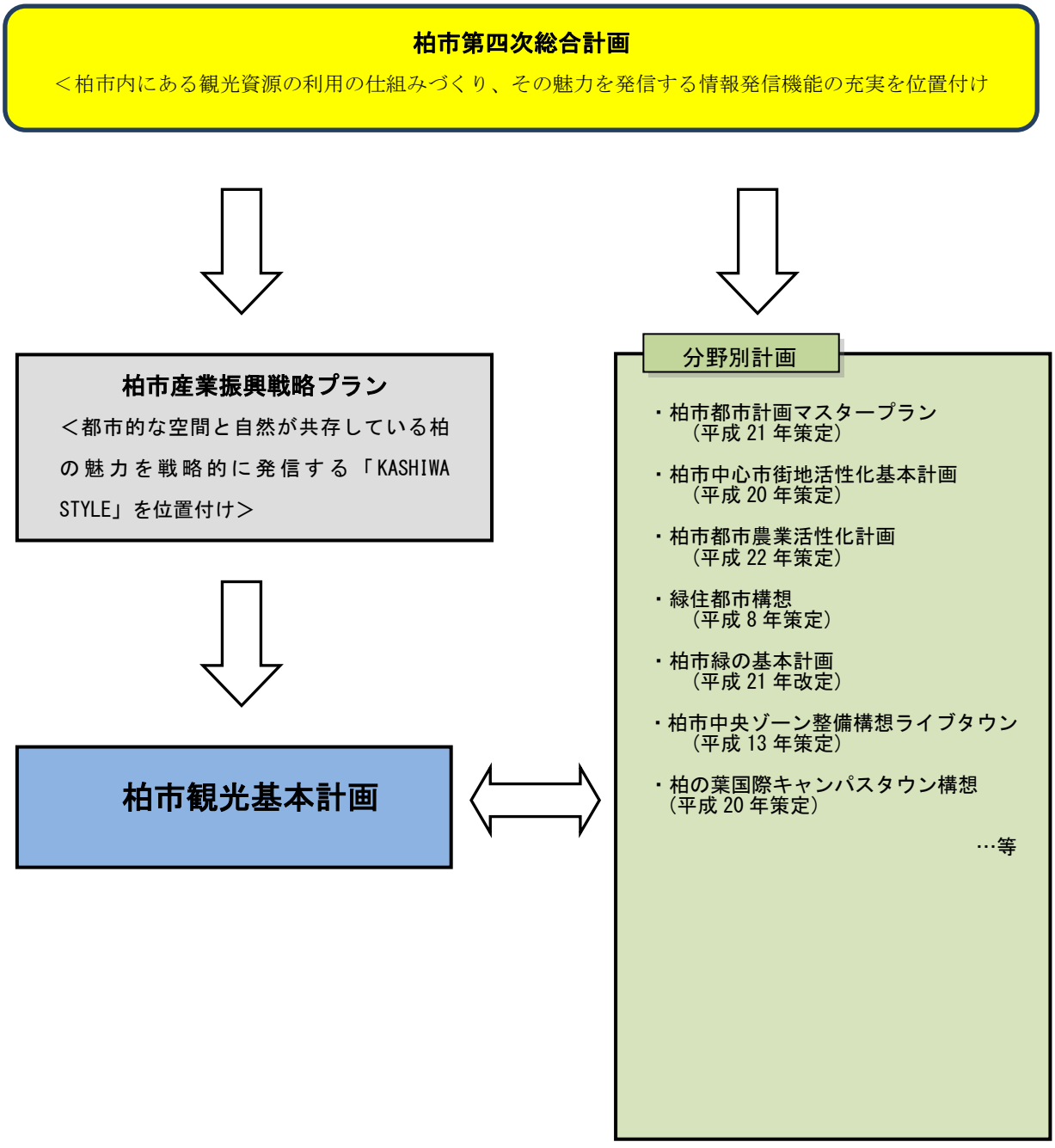

柏市第四次総合計画
＜柏市内にある観光資源の利用の仕組みづくり、その魅力を発信する情報発信機能の充実を位置付け
柏市産業振興戦略プラン
＜都市的な空間と自然が共存している柏の魅力を戦略的に発信する「KASHIWA STYLE」を位置付け＞
柏市観光基本計画
分野別計画
・柏市都市計画マスタープラン（平成 21 年策定）
・柏市中心市街地活性化基本計画（平成 20 年策定）
・柏市都市農業活性化計画（平成 22 年策定）
・緑住都市構想（平成 8 年策定）
・柏市緑の基本計画（平成 21 年改定）
・柏市中央ゾーン整備構想ライブタウン（平成 13 年策定）
・柏の葉国際キャンパスタウン構想（平成 20 年策定）
…等

図 1-1　計画体系図

1－4 計画策定の背景

1－4－1 我が国の観光動向

「国民生活に関する世論調査」（内閣府2012年）によれば、国民生活で特に重点の置かれている分野は、レジャー・余暇生活が37.7％と最も多く、1983年以来連続して第1位を占めており、次いで「食」、「住」、耐久消費財そして「衣」と続いています。このようなレジャー・余暇への関心の高さは、総旅行人数4億人[1]規模に発展し、21世紀のリーディング産業といわしめる背景となっています。

長引いた経済の低迷でしたが、アベノミクスによる経済政策等の影響により景気が上向く中、平成 24 年（2012 年）に国内線に LCC が相次いで就航したことや、5 月の東京スカイツリー開業、平成 25 年（2013 年）には伊勢神宮と出雲大社の遷宮が執り行われる等のビッグイベントが続き、国内観光旅行にとって追い風の要因となりました。

また、平成 25 年（2013 年）9 月には 2020 年の東京オリンピック開催が決定しました。これにより今後数年間に渡る民間設備投資の拡大が予想され、観光分野においても宿泊施設の新設や増改築等の動きが活発化するものと思われます。さらに同年 12 月に「和食」が世界無形文化遺産に登録されることになったことも、インバウンド観光[2]にプラスの影響を与えるものと期待されます。

平成 23 年（2011 年）3 月 11 日の東日本大震災では未曽有の被害を受けました。このため平成 23 年の国内観光旅行者数は激減しましたが、平成 24 年の日帰り旅行は延べ 2 億 430 万人（前年比 3.8% 増、前々年比 0.6%減）、宿泊旅行は延べ 1 億 7,876 万人（前年比 5.2%増、前々年比 4.3%増） となり[3]、東日本大震災前の水準に回復してきています。

政府は「観光立国」の実現を経済社会発展のために国家的課題として、2003 年（平成 15 年）に「観光立国行動計画」を策定の上、観光政策に取り組んでいます。「外国人旅行者訪日促進戦略」では、観光プロモーション活動「ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）」[4]が開始されました。

インバウンド観光では、VJCの効果もあり2010年まで増え続けてきた後、東日本大震災後の影響を大きく受けて一旦下降傾向を示したものの、経済動向は、円高から円安への変化しています。また、一部ASEAN諸国への査証の免除等により、近隣国からの来訪者が急増し、2013年には「観光立国行動計画」の目標であった1,000万人を突破しました。

---

1 2012 年 宿泊を伴う国内旅行人数：約 4 億 2,500 万人、海外旅行人数：1,849 万人
「数字が語る旅行業 2013」 日本旅行業協会、日本観光振興協会

2 海外から日本に観光客が来ること

3 平成 25 年度版観光白書

4 Visit Japan Campaign の略字、
平成 15 年度(2003 年)から、官民一体となり、日本への外国人旅行者の拡大を目的としたキャンペーン

１－４－２　千葉県の観光動向

千葉県には明治時代からの観光名所として香取神社、成田山新勝寺、犬吠埼が存在し、昭和に入って房総半島が県の観光の中での位置付けを確立していました。

千葉県では県内経済の活性化につながるとともに魅力ある県土づくりを実現するために、地域づくりとしての観光振興に力を入れ、平成 14 年には、県政の最重要課題として「観光立県」を掲げ、21 世紀型の観光地づくりに取組んできました。

平成 25 年度に策定される「観光立県千葉推進基本計画」（第 2 次計画）では、観光入込客数（延べ人数）を平成 23 年（基準年）の 1 億 3,300 万人から 1 億 6,400 万人を目標年である平成 29 年の目標値として掲げています。展開の方向性としては首都圏からの観光ニーズの対応を掲げ、リピーター客の確保や宿泊滞在の促進策を推進し、首都圏を中心とした観光プロモーションを行います。また、成田空港を活用して、インバウンド観光の推進や国際会議、コンベンションの誘致促進の取組みを行います。

2020 年のオリンピックに向けて、いち早く戦略推進本部を設置しました。東京オリンピックを契機に成田から都心への通過型ではなく、千葉県内を周遊してもらえるよう、観光地の整備や都心との交通アクセスの充実に力を入れることとしています。

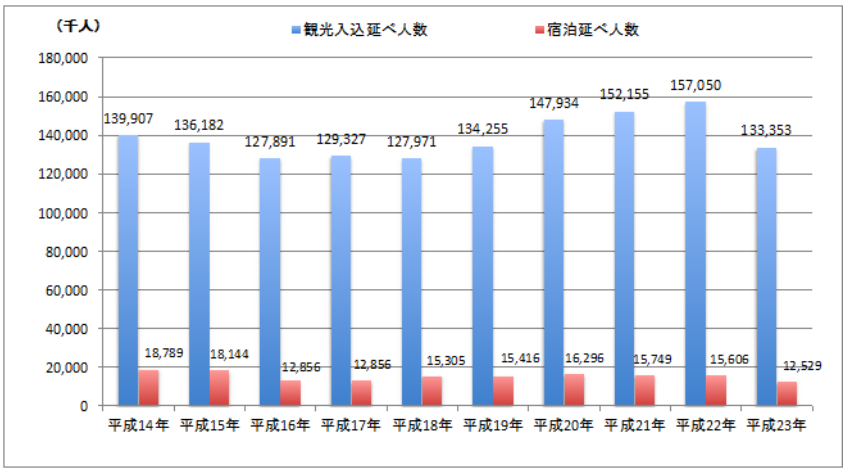


図 1-2　千葉県　観光入込客数（延べ人数）・宿泊客数の推移[5]

[5] 平成 16 年及び平成 22 年に調査方法を全面的に改めたため、単純な経年比較はできません

【千葉県観光振興のための7つの重点課題】

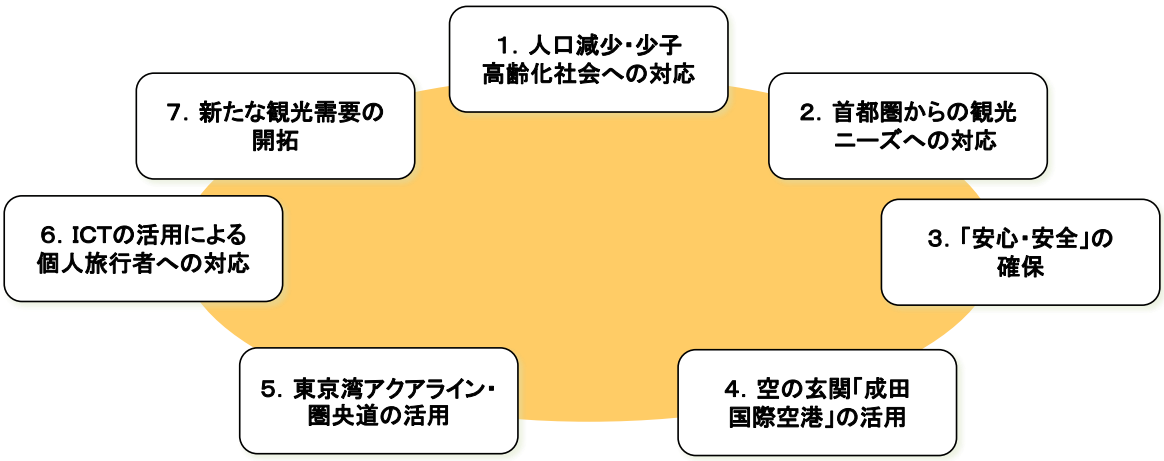


図 1-3　「観光立県千葉推進基本計画」

第２章　観光を取り巻く環境と動向

２－１　柏市における観光動向

２－１－１　柏市の概況と観光動向

柏市は、都心から 30km 圏の千葉県北西部に位置し、東西約 18km、南北約 15km、面積は 114.9 ㎢です。東に我孫子市、印西市、利根川を挟んで茨城県取手市及び守谷市、南に鎌ヶ谷市及び白井市、西に松戸市及び流山市、北に野田市が隣接しています。

下総台地の北西部に位置し、その大部分は台地上にあります。市の北東部には利根川が流れています。標高差は、最大 32m でほぼなだらかな地形です。

高度経済成長期以降、首都圏への人口集中の影響により、平成元年に人口 30 万人を突破、平成 17 年 3 月の柏市と沼南町の合併を経て、平成 22 年には 40 万人を超え、平成 25 年 12 月現在の常住人口は 406、617 人となっています。

交通網に関しては、JR 常磐線、東武アーバンパークライン（旧東武野田線）、つくばエクスプレス(TX)等の鉄道の他、国道 6 号、国道 16 号、常磐自動車道が通り、交通利便性の高い地域です。

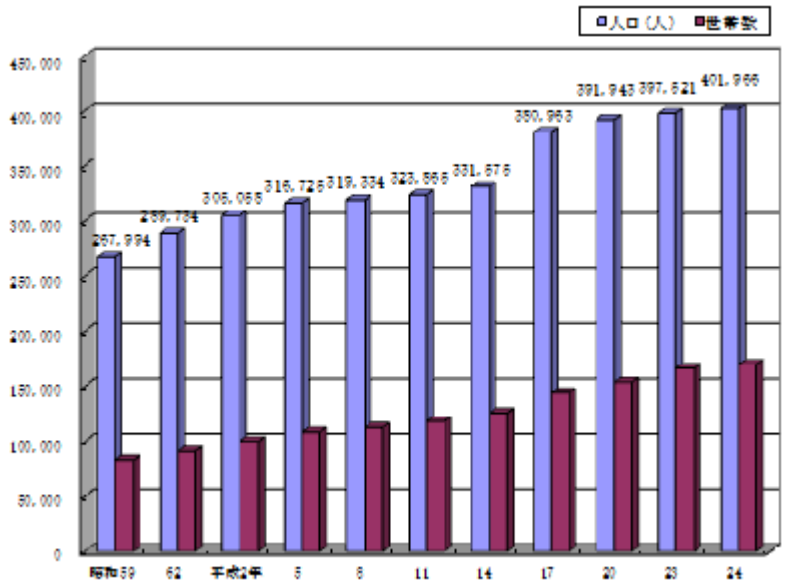


図 2-1　人口と世帯数の推移　（出典：柏市統計書）

このような自然と住居・生活の環境に恵まれた地において、環境と文化の保全とともに、未来へ向けた「都市づくり」を実現するため「みんなでつくる　安心、希望、支え合いのまち　柏」を将来都市像としてマスタープラン及び各分野の計画を策定し取組んでいます。（参考：柏市の計画一覧表）

柏市では、人々の価値観やライフスタイルの多様化、社会経済情勢の変化に対応し、多様な世代が、生き生きと豊かに暮らすことのできる生活環境の整備、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮しながら安心で、快適な市街地の形成を目指しています。また、市街地の質的な改善

や充実、防災性の向上は重要であり、道路、公園、下水道等の社会資本の整備をはじめ、費用対効果等を踏まえた取組みが行なわれています。

市内には、手賀沼やあけぼの山農業公園、国の重要文化財である旧吉田家住宅、柏駅周辺の商業エリア、環境未来都市の実現に取り組んでいる柏の葉エリアの自然の豊かさと都会のまち並みの両方を有しており、多様な観光資源が存在しています。さらに、サッカーJリーグの柏レイソルやバスケットボールJX-ENEOSサンフラワーズのホームタウンでもあり、東京大学や千葉大学が立地する柏の葉エリアの研究施設の集積等、特色があります。

また近隣市の中でも、魅力ある行祭事やイベントも数多くあり、観光入込客数の中でもイベント関係の入込の割合が高くなっているのが特徴です。

	観光地点	行祭事・イベント	観光入込客数（延べ人数）
柏市	1,817,159	1,011,712	2,828,871
船橋市	401,464	657,688	1,059,152
野田市	1,952,125	558,050	2,510,175
松戸市	150,008	496,000	646,008
印西市	753,513	183,072	936,585
我孫子市	219,769	58,000	277,769
鎌ヶ谷市	184,794	14,855	199,649
流山市	10,086	0	10,086

表 2-2　柏市及び近隣市の観光入込客数　出典：「千葉県観光入込調査報告書」（平成 23 年）

平成 23 年の柏市の観光入込客数は 282 万人で、観光地点別で最も多いのは、「県立柏の葉公園」が 92 万人（県内 13 位）、次いで「道の駅しょうなん」が 85 万人（県内 15 位）となっています。イベントでは柏まつりが 70 万人を動員し、県内の行祭事・イベントの中で第 2 位の動員力を誇っています。一方、手賀沼やあけぼの山農業公園、旧吉田家住宅に関しては潜在的な価値があるものの、周知のタイミングや PR 方法等に改善の余地があります。

・

２－１－２　柏市の観光における現状

柏駅周辺の大型商業施設とイベント等で賑わうまち、このようなイメージにより、近隣市と比べて知名度を誇っています。「商業の集積地」、「ウラカシ[6]」や「東の渋谷」に代表されるイメージが強い一方、従来の「観光地」としてのイメージとは合わなかったため、柏市の分野別計画に「観光計画」は策定されておりませんでした。

しかし、国の掲げる成長戦略としての観光、また最近特に高まりつつある「食」と「農」の視点から捉え直すと、多くの観光資源が存在することがわかります。商業拠点を中心に年間を通して開催されるイベント、手賀沼の恵まれた自然と環境、スマートシティ等に加えて、首都圏からの利便性、整備された交通網等、様々な条件も整っています。

「柏市は観光に関して恵まれた環境にある」との観光関係者の言葉が、観光の可能性を示しています。また、柏市観光協会や事業者、市民など民間の力を活用した取組みも求められています。

政策としては、「柏市第四次総合計画」等の上位計画と歩調を合わせ、各分野別計画を反映し進めることになりますが、観光計画によって将来に渡る観光振興の方向性を示しています。

6 柏駅の中心市街地から少し外れたところに古着店や雑貨店が軒を連ねている。

2－2 柏市の観光における課題

2－2－1 観光に関するアンケート調査結果の概要

(1)調査の目的

柏市民、柏市への来訪者及び市内事業者に対し、現状の分析と課題整理を行い、効果的かつ持続的な計画を策定します。

(2)調査方法

観光行動やニーズを把握するため柏市の印象、支出額、利用交通機関などを尋ねるとともに主要観光／集客資源のとっておきスポットを柏市内 5 か所の調査地点において教えていただく等、対面方式によるアンケート調査を実施しました。

【市民】と市外からの【来訪者】及び柏市内の【事業者】の使用調査票は別途『II. 資料編』に紹介しています。

(3)回収サンプル

【市民】と【来訪者】に対しては各々500 以上、【事業者】からは 100 以上のサンプルを回収しました。有効回収調査票は以下のとおりです。

表 2-3　調査地及び有効回答数

調査地	調査期間	市民	来訪者	合計 [n]
柏駅前	8月7日～8月26日	125	120	245
あけぼの山農業公園	8月10日～8月29日	116	116	232
柏の葉キャンパス駅前	8月15日～9月9日	121	118	239
道の駅しょうなん	9月2日～9月5日	118	117	235
日立サッカー場	8月28日	59	59	118
有効回答者数 [N]	8月7日～9月9日	539	530	1、069

柏市内の事業者 [n]	9 月 26 日～10 月 21 日	110

※設問の中で「無回答」のものはサンプル数に含めずに有効回答のみ集計しています。

＜調査結果の概要＞

⑴市民

柏市民のまちの情報を入手するルートに特徴があり、「広報かしわ」「家族、友人の口コミ」が大きなウエイトを占めています。

まちのイメージとしては「買い物が楽しめる」「自然環境が豊か」「プロスポーツチームがある」の 3 つに集約され、便利でありながら自然環境も豊かなまちとして、さらに誇れるプロスポーツチームを多く抱えるまちとして捉えていることがわかります。

これと連動して「よく行く」観光(地域)資源としては、大型商業施設に集中しています。

また、柏市を友人や知人に紹介するかを問う質問では、76%の回答者が「是非紹介したい」「機会があれば紹介したい」と答えており、自分たちの住むまちへの誇りと自信が伺える回答となっています。

⑵来訪者

市外からの来訪者の最も大きな特徴は、柏市へのリピート率の高さであり、回答者の 63%が過去 3 年間に「10 回以上」も訪問しています。

再訪意向でも、56%が「是非訪れたい」「機会があれば訪れたい」と 95%の方が答えており、訪問回数の多い回答者ほど再訪意向も強いことから、リピートの好循環が生まれていることがわかります。

交通手段は自家用(46%)に次いで鉄道(44%)が多く、駅周辺部における渋滞や駐車場周知対策、鉄道利用者を市内へ回遊させる 2 次交通の整備への対応が急がれます。

競合地域としては、アンケート結果の数値が高い東京都を筆頭に柏市以外の千葉県、さらには隣接する埼玉県や茨城県が挙げられます。千葉県北部の交通拠点である柏市の位置付けに鑑みても、周辺の隣接市を中心に柏を経由して東京や他都市へ流れる需要をいかに引き留めるかが課題といえます。

今後、あけぼの山農業公園や県立柏の葉公園等への来訪により、自然の豊かさを知っていただくことで、市内での回遊性を高め、より満足できる観光を楽しんでいただくことが必要と考えられます。

(3)事業者

柏市の事業者は、観光振興により、まちに賑わいをもたらし、外食産業や小売業が繁盛し、地域の消費が増えるという点においての期待が強く見られます。その反面、交通混雑や渋滞が増え、その結果騒音やゴミ等が増えるというマイナス面を懸念する声も大きく、治安の悪化を心配する回答割合も高くなっています。

また、観光振興をする上での要素として重要なものでは、「道路、案内標識、駐車場等の整備や公共交通機関の利便性」が最も多く、その理由としては、道路の渋滞や柏駅と柏の葉キャンパス駅のアクセス、案内標識等の問題が挙げられています。

柏市の魅力については、「買い物が楽しめる」「プロスポーツチームがある」「面白いイベントや祭りがある」等の回答が上位にあり、柏市民へのアンケート調査結果と異なる点は、「自然環境の豊かさ」の評価が低く、「イベントや祭り」の評価が高い点にあります。まち中でのイベントの豊富さを日常目にしている事業者ならではといえる特徴ある回答であると考えられます。

事業者として観光振興を図る上で求める政策的な支援としては、「柏市の観光事業のPRの充実」が第一に挙げられています。その理由としては、個人経営店にも目を向けた PR、イベントの認知度を上げるための必要性等が挙げられています。

２－２－２ 観光関係事業者へのヒアリング結果の概要

(1) 調査の目的

観光に関係する事業を行っている企業や団体を対象に、観光基本計画を策定するための意向や課題等を把握することを目的として実施しました。

(2) 調査方法

一定項目に沿って面談を行いました。

(3) 回収サンプル

15 サンプルを回収しました。(ヒアリングフォームとそのまとめは、「資料編」に添付)

＜ヒアリング結果の概要＞

柏市の観光振興についての、集客に関するプラスイメージでは、賑わい、利便性、ビジネスチャンスなどが挙げられており、柏市の集客力の強みを表す回答が多くみられました。また、マイナス面では、不法投棄、治安の悪化など人が多く集まることによる、弊害や回遊性の悪さ、道路や駐車場の整備など、集客するためのインフラ作りの面での指摘が目立っています。

柏市の魅力としてのキーワードでは、「商業と自然が一体化」「住と商圏が近い」「まちとリゾートが近い」など利便性と優れた環境の併存が挙げられています。また、イベント、スポーツ、天然温泉、環境未来都市など、柏市が持つ特徴的な魅力も挙げられています。

柏市の観光振興に重要な政策では、「情報一元化」「地域間交流」等、横の連携を重視する声が目立っています。課題としては、行政の対応、柏市関係部署内での調整等、市の担う役割に対する期待が多く聞かれ、また、推進策の面では「人材」と「インフラ整備」がキーワードとなっています。

観光振興のプレーヤーとしては、NPO 法人柏インフォメーション協会や NPO 法人ソーシャルキャピタル協会などの法人に対して、行政が継続的な協力をしながら、情報の共有と拡散を図ることが望まれています。

事業者サイドの観光・集客の課題・展望に関する取組みとしては、「かしわハート大使[7]」「ヒカリデッキかしわ 2013」「ユルベルト」等、市民が意識的に関わることにより賑わいや交流創出につながるものが挙げられます。また、ウキスキーや、地元産品の積極的な活用によるさらなる柏の魅力向上に資する取組みへの意向も強くみられます。

柏市が観光振興に取組むことについては、評価が高く、より積極的な観光 PR を望む声も聞かれました。また、行政がハードづくりをし、民間がソフト開発をするという役割分担で観光振興をすすめるべきとの意見も見られます。

7 柏をこよなく愛し、多くの人に柏の魅力を伝えたい、と思う人なら誰でも参加できる柏のＰＲプロジェクト。かしわインフォメーションセンターで実施している。

2－2－3　アンケート調査及びヒアリング調査結果の考察

(1)市民・来訪者アンケート調査結果から得られた課題

市民アンケート及び来訪者アンケートの結果から、柏市観光に関するいくつかの課題が浮かび上がりました。以下の点を解決しながら今後の観光振興に取組む必要があります。

＜市民アンケート・来訪者アンケートから抽出された課題＞

・柏駅大型商業施設の利用が多く、柏駅周辺の商店街や郊外の商業施設の利用が比較的少ない。

・あけぼの山農業公園や手賀沼の不満点は、交通アクセスと駐車場問題。

・柏駅周辺でも道路の混雑、駐輪場が不足しているというイメージがある。

・市民や来訪者に多く利用されている観光（地域）資源が限られており、流動性や回遊性に乏しい。

・訪問回数が多いほど、再訪意欲も高くなり、消費金額も大きくなる傾向があることから、リピートを促す方策が重要。

・プロスポーツの認知や集客力が強くみられる中で、文化・芸術分野では施設や誘致が不足。

・バリアフリー化や子供向けの施設、トイレの設置を望む声も多くみられる。

市民は柏市について友人や知人に紹介したいという回答が 76%にのぼり、来訪者の情報入手方法が家族や友人の口コミが最も多いことから、市民に柏市の魅力を認識してもらい、多くの人に紹介してもらうことが来訪者の増加につながります。

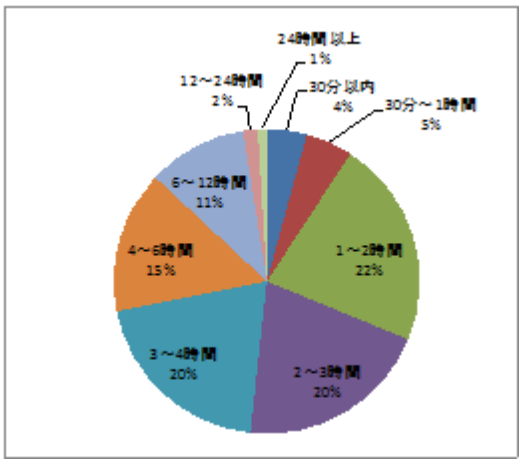


図 2-4　滞在時間（来訪者）

来訪者の合計滞在時間 1～2 時間が 22%で最も多く、柏市への滞在時間は 3 時間までが半数を占めています。滞在時間を増やすためには、回遊性を高めることが重要で、市内のイベント情報のさらなる発信や安心して市内を回遊してもらうために、バリアフリー化や子供向

けの施設、トイレの増設等も必要になってきます。

柏市のイメージについての調査結果では、「家族で楽しめる」「大人が楽しめる」「人との出会い」「ふれあい」といった回答は少なく、賑わいのある商業施設や、田園風景のイメージを持っていることがわかりました。これは市民だけでなく来訪者にも共通しています。

一方で、再訪意向の強い来訪者は、「美味しい食べ物がある」の他、「人との出会いふれあいがある」「文化芸術活動が盛んである」「上品なまちの雰囲気がある」「大人が楽しめる」等のイメージを柏市に抱いている回答者で多くなっています。「上品なまちの雰囲気がある」「大人が楽しめる」等のイメージを柏市に抱いている市民の多くが、柏市について友人・知人に来訪を進めたいという意向を強く持っています。柏市の価値と魅力は、商業施設や自然環境といったハードウエアだけではなく、雰囲気や楽しさ等のソフトウエアにあると言えます。

これまで触れることのなかった新たな価値を見える化し、シビックプライドと柏市のファンであるリピーターとの交流を図ることが、柏市らしい観光振興策と言えます。

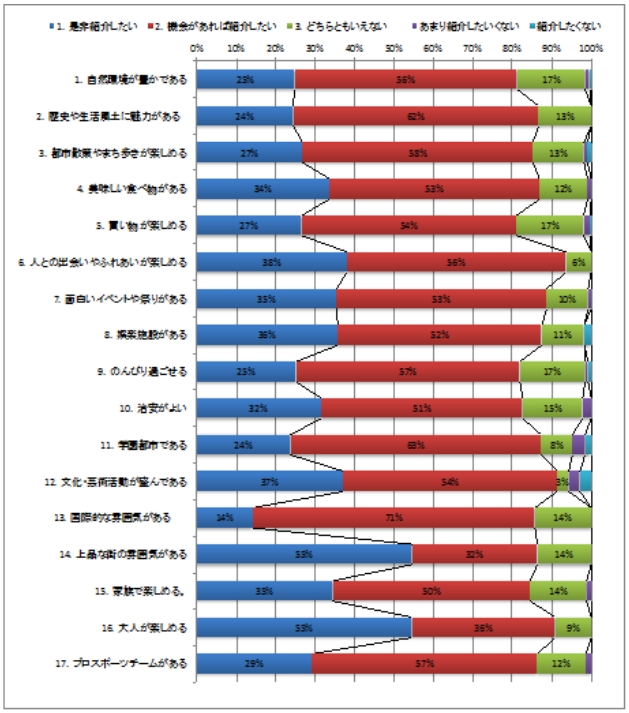


図 2-5
柏市のイメージ別・情報のシェア（市民）

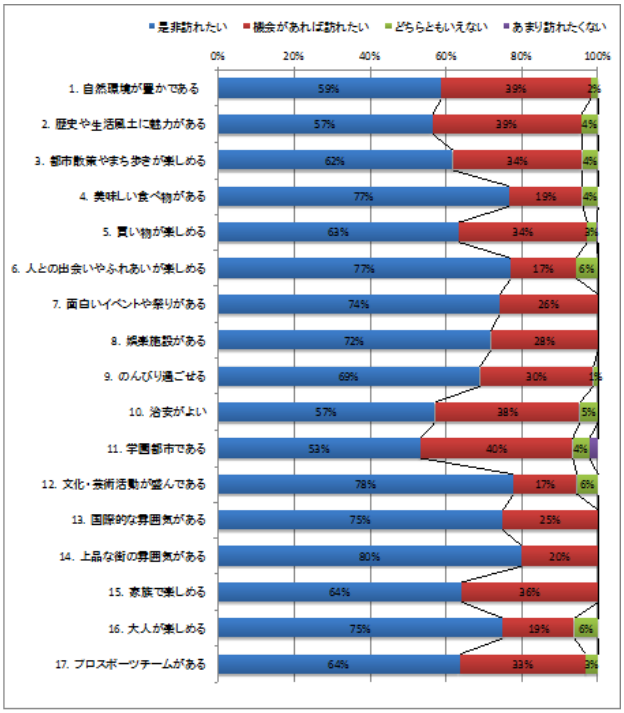


図 2-6
観光資源のイメージ別・再訪の意向（来訪者）

(2) 事業者へのアンケート調査及びヒアリング調査結果から得られた課題

来訪者の滞在時間を長くする工夫は、個別の事業者の努力だけではなく、エリア間での連携によって実現するものと考えられます。そうした点では、市内の様々な事業者の協力が不可欠となってきます。多くの事業者が、市の観光への取組みに対して肯定的であることは、観光振興ネットワークの基盤が整っていると言えます。

そうした中で、事業者が重要な観光要素（課題）として挙げているものがあり、これらの課題をひとつずつ解決してゆく努力が求められます。そのためには、柏市と事業者、さらに市民が一体となって連携した取組みと仕組みづくりが重要となってきます。

＜事業者アンケートから抽出された課題＞

・観光客が増えることにより、騒音・ゴミ等の増加と治安の悪化が懸念される。
・不法投棄等によるまちの美観（景観）の悪化。
・道路や駐車場等交通インフラの整備が必要。
・アクセスや回遊性が悪い。
・観光やイベント情報の発信不足。
・情報共有を含めたネットワーク構築が必要。
・地域の特産物がない。
・駅前周辺だけではなく郊外・地域にもっと目を向けるべき。
・柏の葉スマートシティの充実。
・点在する既存資源を上手く活用していない。
・歴史的な資源が周知されていない。
・早急にオリンピックに向けた観光事業に着手すべき。

(3) 課題のとりまとめと課題解決の方向性

市民、来訪者、事業者それぞれから抽出した課題をとりまとめると、以下のように整理することができます。

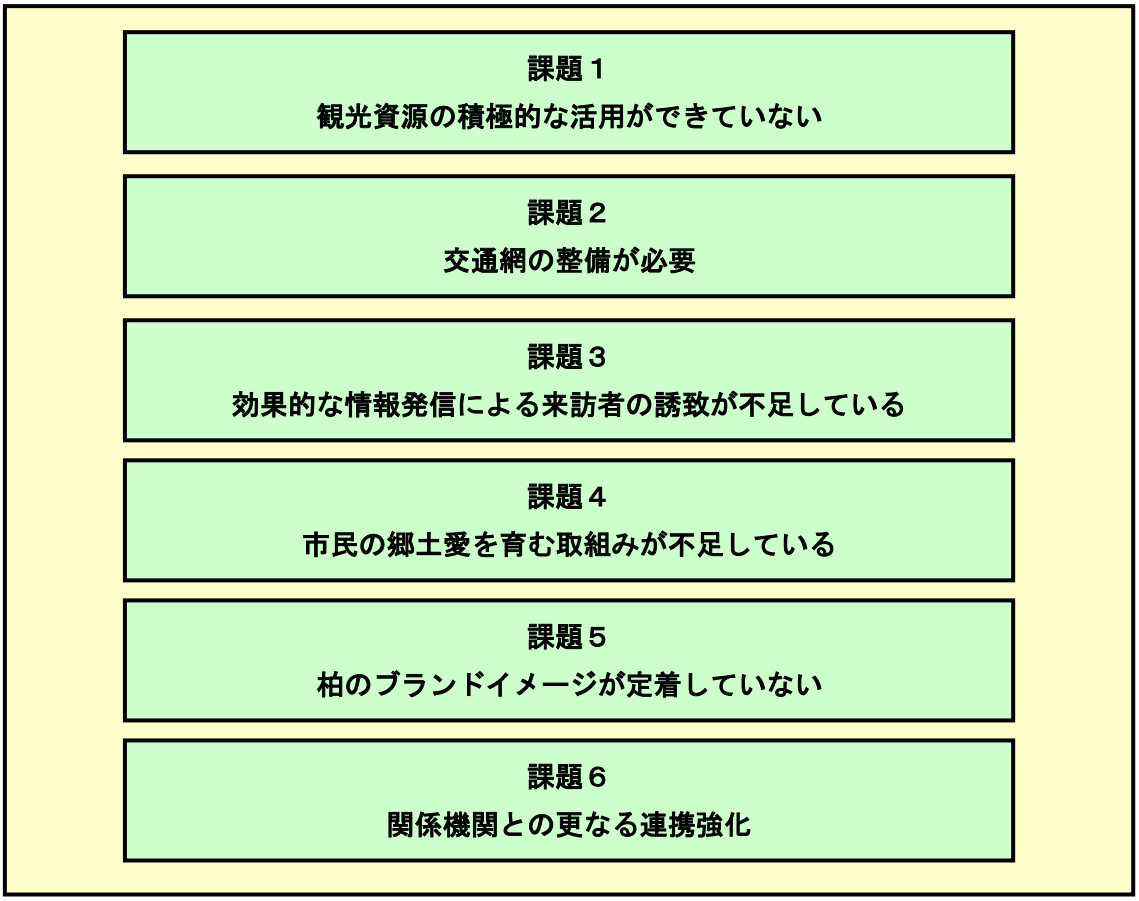


図 2-7　柏市の課題

都市と農村景観のマッチングしたまちである点が、柏市の独自性と言えます。観光振興を図る上では、特徴である「買い物の楽しさ」と「豊富な自然環境」について、さらに効果的に編集し、発信してゆく必要があります。柏市全域での取組みとして、スポーツクラブチームの積極的活用や観光プロモーション活動の推進、交通アクセスの向上等が考えられます。また、プロモーションの展開にあたっては、市民が地域資源に誇りをもって柏市の観光を薦められるよう、シビックプライドの醸成を図りながら、市民参加の観光振興推進に取組んでいくことが重要です。さらに、市内にある観光資源をエリア別の特徴として考えると、商業を中心とした都市型観光の柏駅前エリア、農業や自然を生かした体験型観光のあけぼの山公園と手賀沼周辺エリア、MICEをスマートシティなどビジネス型観光の柏の葉エリアなど、それぞれの特徴を活かしながら取組んでいくことが重要です。

市民、来訪者、事業者のアンケート調査結果等を踏まえて、見えてきた課題を以下のとおり、整理します。また、3章では課題解決のための基本方針、そして4章では解決のためのアクションプランを載せています。

第３章　計画の基本方針と基本施策

３－１　計画の基本方針

基本方針は「柏市第四次総合計画」及び「柏市産業振興戦略プラン」を踏まえつつ、第2章のアンケート調査、ヒアリング調査から抽出された課題に対応する基本的な考え方をまとめました。

（仮）メインテーマ「都市と自然、未来にふれあえるまち柏」

「都市」とは…　**市民・来訪者が出会い、ふれあえるまち**

駅前周辺での多彩なイベントや自然とのふれあいは、市外から柏市に訪れる来訪者だけではなく、市民も一緒に楽しめるものとなっています。観光資源を活用して、市民や来訪者が心から楽しめる環境をつくることで、人と人との出会いが、コミュニケーションをとる機会につながり、まち全体も活気づきます。市民と来訪者がともにふれあうための機会をつくり、交流拠点となるまちを目指します。

「自然」とは…　**いきいきと楽しく健康づくりできるまち**

都心に近いながらも、家族や仲間たちとレジャー活動や趣味等を通じて楽しめる自然環境・文化体験があります。手賀沼でジョギングやサイクリング等のスポーツ、その周辺地域での農業体験、あけぼの山農業公園で花畑の鑑賞や歴史ある紅龍山東海寺（布施弁天）への参拝等、いきいきと楽しく余暇活動ができるよう環境を整え、健康増進にも貢献していきます。

「未来」とは…　**柏発信の先端技術が見えるまち**

市内の観光資源の一つとして独特な地域特性を持つのが、柏の葉エリアのまちづくりです。柏の葉エリアでは、先進的な研究を行っているにふさわしい頭脳と技術の集積があります。ここでは、未来の新しいコンセプトを提供することができます。オープンキャンパスや MICE の誘致により日本国内のみならず、世界各地から多くの方々に訪問してもらい、最先端の技術を使って成長するまちを見て、体験してもらうことも重要な役割です。

そして、基本方針をもとに観光振興の施策を行うために、施策の方向を次のとおり定めます。

「人が集まるものをすべて観光資源と考える」

柏市には柏駅を中心とする商業施設の集積、あけぼの山公園や手賀沼エリア周辺の農業景観、また柏の葉キャンパス駅を中心とした大学や研究機関の集積等、エリアごとに異なる特徴を持ったまちとなっています。そしてそれぞれのエリアの持つ魅力に惹かれて、若者やファミリー層、ビジネスマンや研究者たちが集まってくるまちとなっています。これらの全てを観光資源と位置付けて、集客や誘致の取組みを行なっていきます。

「シティプロモーションの促進」

本計画で言う「シティプロモーション」とは、市外へ柏市をPR手法の見直し等により、柏市の認知度を高め、集客に働きかけることだけでなく、柏で働き、住みたいという人材を獲得できるよう、都市の魅力を強化するとともに、柏のブランドイメージ確立を目指します。

首都圏からの観光ツアーの組成、市民が楽しむ観光であり、首都圏からも気軽に楽しめることを念頭に入れています。フェイスブックやツイッター等の SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用を含め、効果的な PR 手法を展開していきます。

「シビックプライドの醸成」

「シビックプライド」とは、住んでいる街に自然と誇りをもてるよう、「市民がその都市に対して持つ自負・公共心」を指します。

「シビックプライド」は、人口や所得や税収の増減、公共施設の数や道路の整備率といった指標からは見えない、測定も困難な相対的な概念です。集客面で成功した事例を見ると、単に数値だけでは測れない何かがあることに気づかされます。成長しているまちとは、ブランディングの首尾一貫した姿勢や事業に協力している多くの市民や関係者の後押しが欠かせないものです。

観光は「域外からの集客手段である」と捉えるだけではなく、まずは市民が誇りを感じることができるような資源を育成することが先決です。本計画では「シビックプライドの醸成」を核の一つと位置付け、関連施策において市民参加の誘発に取組んでいきます。

「市域を超えた広域連携」

事業の取組みの実現には、各事業における専門的な知識や協力体制等が必要になります。まず、柏市も庁内との連携を図り調整・情報共有等をしていくとともに、観光協会や市民、大学、農商工事業者が一体となって、観光振興を図っていかなければなりません。

また、我孫子市、印西市と手賀沼・手賀川周辺の活性化を実現させるために、「手賀沼・手賀川活用推進協議会」を設置しました。水辺空間を活用して集客を図るため、当協議会の活動を推進をするとともに、民間活力を活用していきます。

3－2 施策の進め方

本計画における施策の実施にあたっては、以下のとおり、施策の進め方を定めます。

○「成功体験の確立から」

本計画に記載した各事業について、短期（3 年）を基準に事業遂行できるものを優先して実施していきます。

まず、成功体験を確立し事業効果の周知を広く行うことを念頭に、事業の実現可能性が高いものから優先して実施します。

○「助成金に頼らない施策から」

多くの助成金は初期投資のみが対象となるため、後年度のランニングコストの財源確保が課題となります。したがって、その解決策を念頭に置くことが求められます。

継続的な財政負担は市の厳しい財政状況を踏まえると、助成金に頼らず財源確保されている事業から優先して実施します。

○「市民参加の仕組みづくりから」

柏市が観光振興に取り組む上では、地元（柏市民・東葛地域の住民）の人々が愛し・誇りに思える観光資源でなければなりません。そのため、事業を進めていく上で市民との協働の視点を持って実施します。

3－3 重点地域

各施策の検討にあたり、資源の集積度、集積している資源の特性、地域の特性、交通環境等を勘案してエリアを4つ設定し、柏市の観光振興に向けた重点地域とします。

＜地域区分＞

地域の名称	特　徴
柏駅周辺エリア	柏駅周辺のイベントや商業施設、飲食店等の立地を活用した買い物客の賑わいも集客の一つと捉え、回遊性と交流人口を拡大することが更なる地域経済の活性化につながります。
あけぼの山公園周辺エリア	季節折々に咲きほこる花畑や布施弁天等、観光名所として観光客を集めていますが、市内外の幅広い年代の方にレクリエーションの場として利用価値を進める必要があります。
手賀沼周辺エリア	豊かな自然が残る手賀沼は、都心から近い立地もあり、サイクリングやウォーキング等スポーツが盛んに行われています。また、野菜の生産地として近郊農業も発展しています。体験型・参加型の要素を付加することで、農業を通じた交流が期待できます。
柏の葉エリア	大学等の研究機関や先進技術を持った企業が集積した地域で、公民学が連携してまちづくり活動を行っています。先進都市として対外的に発信していくためにスマートシティツアーの導入やMICE誘致、新産業の分野でのプロモーション活動が期待できます。

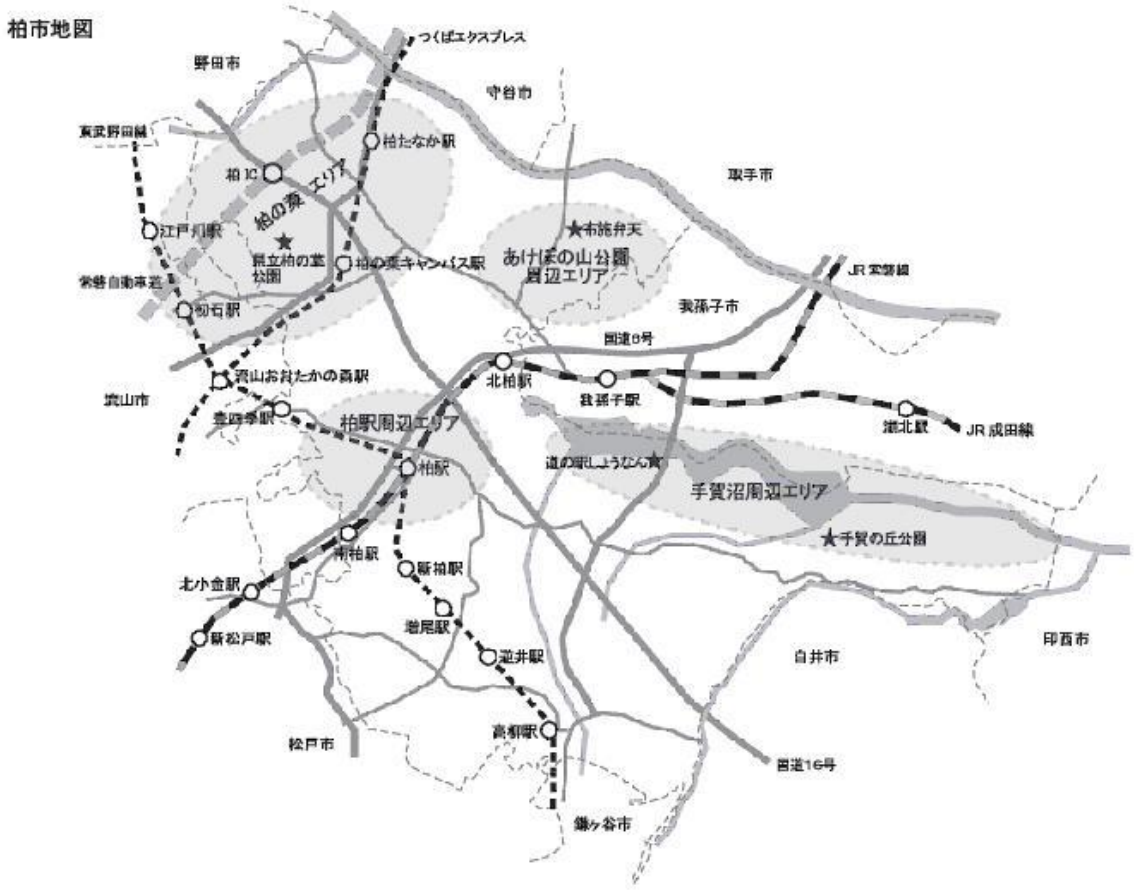

柏市地図
つくばエクスプレス
野田市
守谷市
東武野田線
柏たなか駅
柏IC
柏の葉エリア
取手市
江戸川駅
布施弁天
県立柏の葉公園
柏の葉キャンパス駅
あけぼの山公園周辺エリア
JR常磐線
常磐自動車道
初石駅
我孫子市
国道6号
流山おおたかの森駅
北柏駅
我孫子駅
流山市
豊四季駅
柏駅周辺エリア
湖北駅
JR成田線
柏駅
道の駅しょうなん
手賀沼周辺エリア
南柏駅
手賀の丘公園
北小金駅
新柏駅
増尾駅
新松戸駅
逆井駅
印西市
白井市
高柳駅
松戸市
国道16号
鎌ヶ谷市

図 3-1 地域区分図

第４章　取り組むべき事業（観光推進の方策）

４－１　柏市全域での取組み

(1)現状

柏市には、恵まれた自然環境や産業(農業、商業、工業)、歴史や文化が存在します。農業についてはあけぼの山や沼南地域、手賀沼周辺等農業とふれあう環境があり、商業については柏駅前の中心市街地に商業施設が集積し、賑わっています。工業についてもオンリーワン製品や技術を持つ企業、世界トップシェアの製品を扱っている企業、最先端の技術を研究開発している企業等、市民が誇れる企業が数多く存在します。

そして柏市には、「地元　かしわ」を愛する市民が多く、様々な民間団体がイベントや自主的な活動に取組んで、柏市のイメージアップや活力向上に一役買っています。

里山ボランティア等、地域コミュニティの醸成を行う活動に取組む多くの団体や個人が存在し、貴重な地域資源の景観を守ることに繋がっています。

みどりの保全・創出、交流の促進、地域の魅力アップを目的として、市民が手入れを行い主体的に利用している樹林地や空き地及び一般公開可能な個人の庭を含む「カシニワ」等の活動は、柏市の魅力を一層高めることに繋がっています。

さらに、おびしゃ[8]や東葛印旛 88 カ所巡り[9]等、地域の伝統行事も継承されています。

国指定重要文化財の旧吉田家住宅では、後世に残し伝えていくための保全を図りながら、施設内ボランティアガイド、地域の交流など広く活用されています。また、県指定文化財の旧手賀教会堂(正式名称:日本ハリストス手賀教会)は、首都圏で現存する最古の教会堂です。

柏をホームタウンとするスポーツクラブとチーム(プロ、実業団、社会人、公益財団法人)もスポーツツーリズムの資源と考えられます。

市民及び来訪者を対象としたアンケート調査結果でも、柏市のイメージとして、「買い物が楽しめる」「自然が豊か」「プロスポーツチームがある」が上位 3 つを占めています。

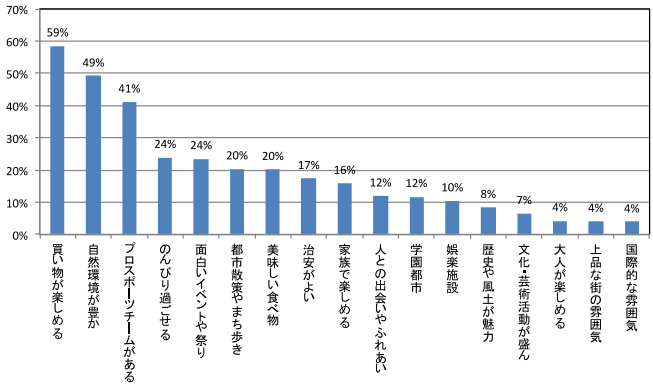


図 4-1　観光のイメージ(市民)

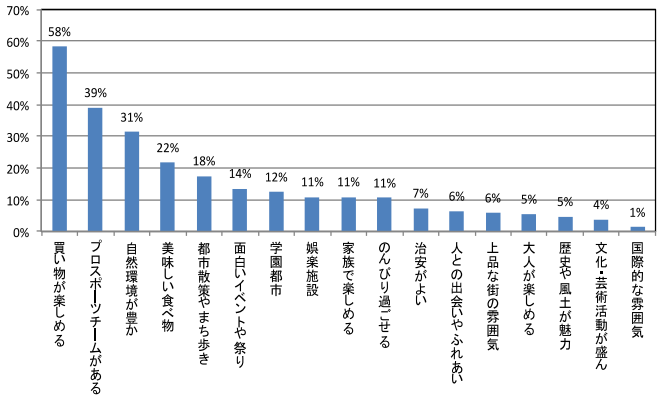


図 4-2　観光のイメージ（来訪者）

[8] 「おびしゃ」は関東地方、特に千葉県に多く、もとは弓を射て的に当てることで、その年の豊穣を祈る行事。船戸のおびしゃは、現在、的射は行われていないが古い形態を持つ踊りとして貴重な存在。また、市内の泉地区、鷲ノ谷地区では新粉餅で作った鳥を飾った鳥木を供える極めて珍しいとりびしゃ神事が行われています。

[9] 千葉県の旧東葛飾郡と旧印旛郡にまたがる四国八十八箇所霊場の写しを巡礼する行事。88 ヶ所の札所は柏市に 69（旧沼南町に 53、旧柏市に 16）、白井市に 10、鎌ケ谷市に 5、松戸市に 4 ヶ所存在する。

(2)課題

＜スポーツクラブ・チームの活用と交流できる施設不足＞

ホームタウンとするスポーツクラブ・チームは多くあり、柏レイソルを筆頭に交流を深める活動をしています。スポーツクラブ・チームはツーリズムの面から、重要な観光資源のひとつであり、地域ブランド確立の上で積極的に活用すべき財産と言えます。

柏市には「スポーツチームがある」というイメージが定着していますが、日立サッカー場以外、選手と交流できる場所がありません。観光振興に結びつくように、スポーツチームの活用を図るべきです。

＜地域のプロモーション不足＞

柏駅前の大型商業施設や柏駅周辺の商店街、そして郊外の商業施設への訪問率は高い反面、市内に数ある観光資源についての認知度は決して高いとは言えません。評価の高い観光資源についても、まだまだ知られていない状況にあります。来訪者を増加し長期的にリピーターを増やす上でも、潜在的な魅力を伝えて行くことが不可欠となります。

＜市民参加の促進＞

柏市では、市民団体の主催するイベントが連日行われ、また季節ごとの祭りや催事も多くあります。市民が積極的に参加し、柏市を活力あるまちにする取組みが多い一方で、イベントプロモーションの仕組みづくりや運営面では、さらなる市民参加が求められています。柏市に愛着を持ち、柏市の良さを強く認識している市民は、まちの担い手であり、情報発信の担い手でもあります。市民参加型のイベントを増やし、内外に向けて情報発信する必要があります。

(3)推進策

○優れた技術力を持つ地元企業の活用

推進策の概要	他都市の事例
①観光等に寄与する地域経済の振興として、植物工場等の立地や企業を紹介するツアー、工場見学等を促進させ、地元企業の活動や取組みについて、対外的にPRします。 ②柏の歴史遺産に目を向け、大銀杏、うなぎ、カワウソ、鴨、弁天様の神事で使われるたまご[10]等、柏に所在する様々な遺産(題材)の活用を図ります。市民や来訪者の新たな発見や愛着にも繋がっていくよう、地域の民間事業者と連携して商品開発を行います。 【法輪寺の大銀杏】	・浜松市では、春華堂うなぎパイの工場やヤマハグランドピアノ工場などの見学を実施し、産業観光の促進に取り組んでいます。すぐれた企業の存在は、地域のイメージアップに結びつき、観光客誘致に役立てることが可能になります。 【浜名湖地域産業観光ガイド】 ・沖縄県今帰仁村の古宇利島では、島にまつわる伝説に因んだ地元産食材を使用した地域限定のオリジナルクッキーを生産、その場所にいかなければ買えないことも話題となり、賑わい創出につなげています。

○スポーツクラブ・チームの積極的活用

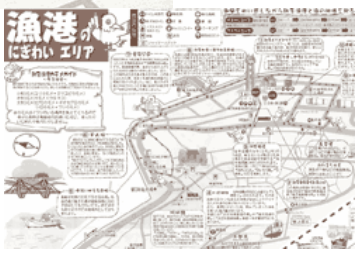
推進策の概要	他都市の事例
①柏に本拠地を置くスポーツクラブ・チームによるホームゲームを盛り上げ、集客を図ります。 ②各種イベントにスポーツ選手を呼び市民と交流する機会をつくります。 ③オリンピック、パラリンピックに向けてキャンプ地や合宿地として誘致活動を行います。	・川崎市では地域を拠点に活躍している川崎フロンターレ(サッカー)やNECレッドロケッツ(女子バレーボール)等をかわさきスポーツパートナーとして認定し、市内小学校を中心としたふれあいスポーツ教室の開催や市民との交流イベントを通じ、スポーツの推進や川崎のイメージアップに取り組んでいます。

[10] 布施弁天では供えられた玉子を加持祈祷して茹でて毎月 1 日、15 日、巳の日に 108 個の玉子を配る。殻に願いを書いて食べ、殻を埋めると願いがかなうといわれる

○観光プロモーション活動の推進

推進策の概要	他都市の事例
①市内の各観光拠点（あけぼの山公園、手賀沼等）を結ぶ公共交通機関やサイクルロード等を整備します。 ②観光施設を巡るバス路線の新設と既存のバス停留所の名称の見直しを検討します。 ③市民から市内の建物、風景、歴史、文化等の情報を集めてデータベース化し、映画やドラマ撮影のロケ地活用を積極的に誘致します。 ④大規模な収容能力のある場所を活用した野外イベントの開催を実施します。 ⑤市内の小中高等学校の吹奏楽部と連携したプロモーション活動を検討します。 ⑥テレビドラマを活用してプロモーション活動を実施します。 ⑦柏のウイスキー文化の PR を行っていきます。 ⑧柏をイメージした商品開発を行い、定番土産を開発します。 ⑨柏市公設市場にいつでも野菜や鮮魚が買えるよう場外市場等を整備し、賑わいを創出します。	・茨城県つくばみらい市では、市内にあるロケ施設と連携したフィルムコミッションを展開しています。都心から1時間圏内のアクセスを活かしたロケ地の提供とともに、500 人を数える市民エキストラの会と協働し、地域の賑わいに繋げています。 撮影実績 / 平成22年度 / 平成23年度 / 平成24年度 テレビ 17 15 22 映画 4 3 5 その他 2 2 0 合 計 23 20 27 【つくばみらい市のロケ地】 出典：つくばみらい市ホームページ

○情報発信の充実

推進策の概要	他都市の事例
①来訪者の目的に合わせた観光情報の発信をするために、まち歩きマップやガイド、飲食店紹介冊子を作成します。 ②かしわインフォメーションセンターやデジタルサイネージ[11]、ＳＮＳ等を活用して最新情報を発信します。 ③体験農業や直売所、農家レストラン等の農業分野についても情報発信し、都市型農業もＰＲします。 ④雑誌、新聞、テレビ、口コミ等様々な媒体を使用して広く発信していくとともに民間活力を利用して多種多様なイベント情報の収集方法を検討していきます。 ⑤広報かしわを有効活用するために、市以外の主催団体イベント情報の掲載も充実させます。	・銚子市の３つのエリアについてまち歩きの魅力を余すところなく伝える「てんでん銚子まち歩きマップ」は、郷土史研究家等の有識者や観光ボランティア、地域住民等、13 名のメンバーからなる「銚子まちなか歩き研究会」が作成しました。3ヶ月で完成した完成度の高いマップです。  【銚子市の「てんでん銚子まち歩きマップ」】

○市民・来訪者の地域参加の促進

推進策の概要	他都市の事例
①市内で毎日のように行われているイベントの情報を一元化して発信するポータルサイトを構築し、市民や来訪者がワンストップで情報入手できるようにします。 ②既存のボランティア登録制度を有効活用します。また、観光ガイドとしての育成を推進していきます。 ③モニター制度により、イベント終了後に意見を集約するシステムを構築します。 ④カシニワや里山ボランティア等の制度をPRして認知度アップを図り、参加者・活用者の増加によるコミュニティ意識の強化、地元愛強化とまちの美化につなげます。	・3 年に 1 度開催される現代アートの国際展「横浜トリエンナーレ」は市民参加型の運営をしており、多くのサポーターによって支えられています。 また 1 年を通じて市民参加型のイベントを展開している地域として、狭山市や茅ヶ崎市を挙げることができます。 【横浜トリエンナーレのホームページ】

11 屋外や店頭などに設置された液晶ディスプレイなどの映像表示装置。近くにいる人や通りすがりの人に案内情報や広告などを表示する装置で、看板やポスターなどを電子化したもの

○歴史文化財、文化芸能の保全とシビックプライドの定着

推進策の概要	他都市の事例
①柏郷土資料展示室の周知を図ります。 ②こども図書館の利用促進を図ります。 ③地域の伝統行事を紹介し、地域住民に知ってもらう機会を設けます。 ④昔話や芸能伝承について多くの市民へ知ってもらい、次世代へ伝承するために、映像や音声等で記録します。 ⑤寺社の茅葺屋根修繕等の見学ツアーを検討し、普段見ることのない現場を見てもらい、歴史文化財に触れる機会を作ります。 ⑥旧吉田家住宅歴史公園に観光バスが入れるように検討します。 ⑦民間の文化財保全のため、財源確保に努めます。 ⑧市内全域を対象としたまち歩きマップの作成を検討します。 ⑨柏の葉公園は周辺住民の憩いの場や健康づくりの場としての活用を促進します。 ⑩こんぶくろ池の生態系を紹介する機会を増やします。 ⑪市内に点在するサクラやカタクリ、ボタンの名所について環境保全に配慮しながら、より市民に鑑賞してもらえるように努めます。 ⑫歴史文化財の紹介や自然環境の保全を目的としたボランティアを組織します。	・佐賀県では、語り継がれて来た昔話を県の貴重な伝承遺産としてデジタル化し、県立図書館のホームページで公開しています。 【佐賀県立図書館ホームページの「佐賀の昔話」のコーナー】 ・北海道の剣淵町は絵本の里として有名です。絵本の館は図書室と美術館が一緒になったような施設で、親子がふれあえる場所として人気があります。 【剣淵町の絵本の館】 ・神奈川県では、環境省・箱根町とともに、神奈川県自然公園指導員やボランティアの方々の協力のもと、登山道の補修や階段設置作業から、外来生物の駆除やイノシシが掘った穴埋め、ゴミ拾い等を行っています。

(4)将来展望

市民は、地元の農産物、加工品、工業製品等、あらゆる生産物に対して、誇りを持つようになります。さらに、形になったものだけでなく、人とのふれあいや上品なまちであること等、目に見えない柏市の価値に対しても市民は誇りを持ちます。

また、地元スポーツクラブ・チームの応援やスポーツ選手との交流、地元小中高等学校の吹奏楽部との連携イベントを行うことで、市民の郷土意識を高めるとともに、柏市を PR する機会になります。

さらに、他地域と連携し遠足や体験学習の誘致、柏の名産品PRを積極的に行い、知名度向上や産業振興に取組むことで多くの来訪者を誘致できます。

また、伝統行事等の担い手の育成や地域の歴史、文化の伝承、地域コミュニティの活性化によるシビックプライドを醸成し、柏市の魅力を高めていきます。

4－2　柏駅周辺エリアの都市型観光の推進

(1)現状

柏市の最大の集客エリアである柏駅周辺には、有名百貨店や小売店、飲食店等が集積し、近隣他市と比べて賑わいを保っています。柏市の卸売業小売業年間売上高は、県内で千葉市、船橋市についで第 3 位の規模になっています(平成 24 年経済センサス･活動調査)。駅前でのストリートライブやアートイベント、飲食店の食べ歩きイベントも数多く行われています。

しかしながら、他地域での大型ショッピングセンターの開業や、つくばエクスプレス(以後、「TX」と表記)開通により、柏駅の乗降客数は平成 18 年以降 20%減少し、さらにTXで都内へ買い物に行く人が増える等人の流れが変化しています。さらに平成 20 年のリーマンショックや平成 23 年に発生した東日本大震災の風評被害の影響もあり、中心市街地の歩行者通行量と年間小売販売額も減少傾向にあります。

(2)課題

＜柏駅を利用する乗客数の減少＞

音楽・アート・飲食系イベント等、柏駅を中心とした市民活動等は活発であるものの、平成 17 年8月 24 日の TX 開業の影響により、JR柏駅の一日平均乗客数は平成17年度が前年度比 5.6%の減少、平成 18 年度は 6.2%の減少と、計 10%以上落ち込みました。その後も減少傾向は続き、減少率は回復しつつあるものの、TX 開設以前の乗客数と比べて 1 日平均あたり 2 万 5 千名以上減少(約 20%)しています。

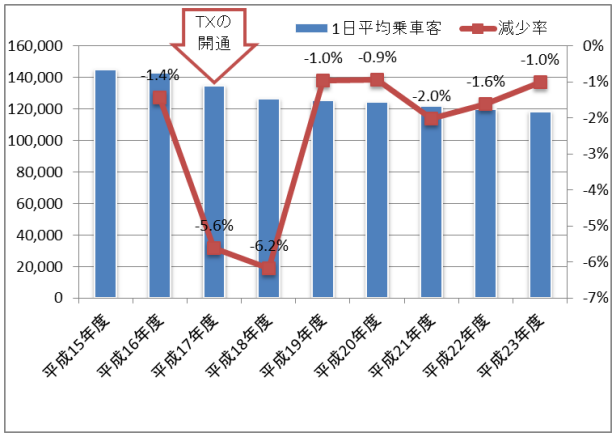


図 4-3　柏駅(JR)一日平均乗客数

＜商業施設間の回遊性の形成＞

アンケート調査により、商業施設の利用では、柏駅の大型商業施設や柏駅周辺の商業施設に「行くことが減った」と答えた割合が多いことから、TX開通以来通過客が増えたことも推測され、柏駅周辺の吸引力はやや低下しているものとみられます。市民も柏駅の大型商業施設には出向く事が少なくなってきているという傾向が見られます。

また、駅前の大型店に買い回り客が集中するため、その先の商店街まで足を運ぶ人が少なく、回遊性が生まれにくいという傾向もみられます。

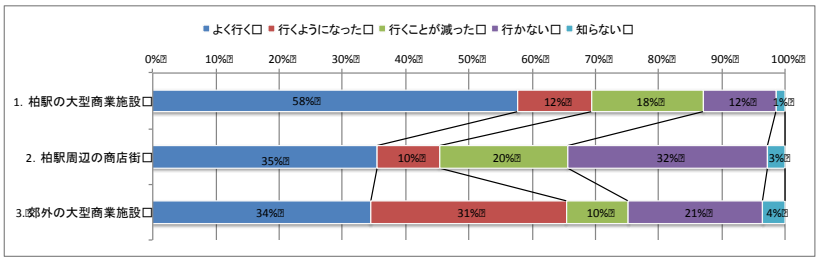


図 4-4　観光資源の利用頻度（市民）

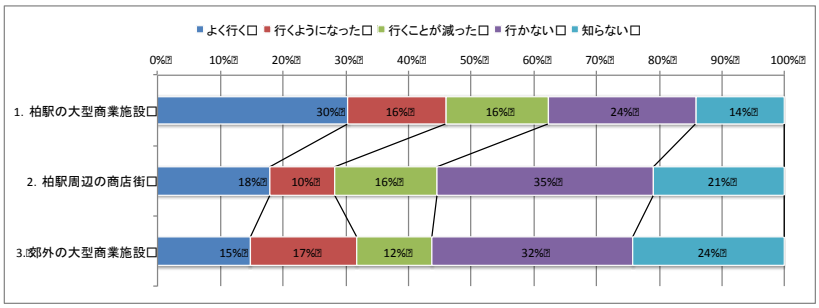
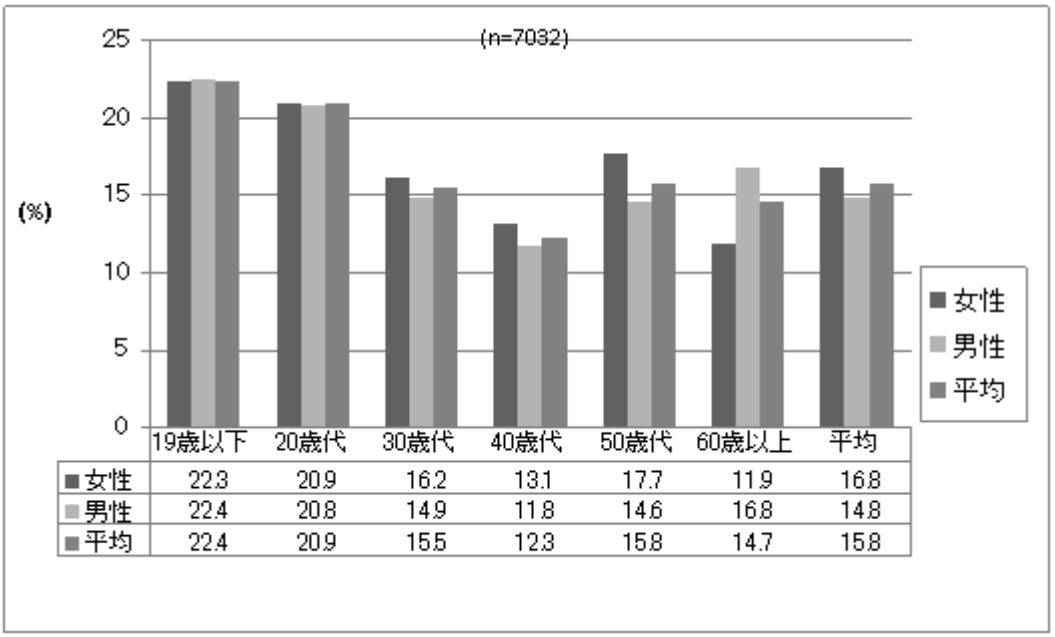


図 4-5　観光資源の利用頻度（来訪者）

＜子育て世代への配慮＞

柏駅周辺には、子育て世代の来訪者の促進につながる施設・サービスが不足しています。例えば、周辺商業者・事業者においてキッズスペースや子供が遊べる場所、授乳・オムツ替えの場所が少ないことやベビーカーでの移動が困難なことなどが、郊外型大型商業施設と比較して、ウィークポイントとして挙げられます。

平成 23 年度柏市商業実態調査においても、30～40 代の来訪者は、他世代に比べて低いことから、子育て世代への配慮が求められていると推測されます。



	19歳以下	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	平均
女性	22.3	20.9	16.2	13.1	17.7	11.9	16.8
男性	22.4	20.8	14.9	11.8	14.6	16.8	14.8
平均	22.4	20.9	15.5	12.3	15.8	14.7	15.8

図：柏駅周辺の吸引率【性別・年代別】

＜観光バス発着場の確保＞

首都圏や近県等から高速道路利用による観光客誘致を図ろうとしても、柏駅周辺には大型観光バスの停留スペースが確保できないため、柏駅発着のバスツアーを企画することが困難な状況にあります。駅周辺に観光バスの発着場所を設置するためには解決すべき課題も多くありますが、駅前での観光バス発着を可能とすることにより、利用客が柏駅前に立ち寄りやすくなり、柏市内での消費の拡大にも繋がります。

＜安心安全の向上＞

柏市の観光資源のイメージ評価では、「買い物」の利便性が評価されている反面、治安面の評価が低く、観光客誘致の面ではマイナスイメージに繋がることが懸念されます。市民のみならず、市外からの来訪者が安心して買い物を楽しみ、まち歩きを楽しめるような環境づくりが必要です。

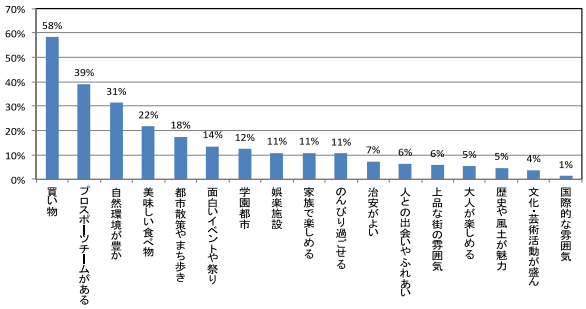


図 4-6　観光資源のイメージ（来訪者）

＜イベント関係の情報管理の一元化＞

柏市の魅力の1つでもある豊富で多彩なイベントについて、情報発信が量・質ともに不足しているという現状があります。様々な主催者が思い思いのイベントを繰り広げることにより、柏市での催しが多様で多彩になっているのは、このまちで誇れることの一つです。行政と各主催団体と一体となり、情報の共有・公開の一貫した体制づくりが必要です。

(3)推進策

○来街者の受け入れ態勢の強化

推進策の概要	他都市の事例
①空地でオープンカフェを行います。 ②子供が楽しめる空間や子育て世代が外出しやすいように環境を整備し、来訪者の増加を図ります。 ③柏駅周辺に外国人観光客を呼び込むためにも、Wi-Fi スポットを設置して、ネット環境を整備するとともに、多言語のマップや観光パンフレットを充実します。 ④駅前にまち並みの景観にあう清潔な公衆トイレに改築することを促進します。 ⑤柏市防犯協会、柏駅防犯推進協議会、ガーディアンエンジェルス[12]柏支部と連携して、安心して歩けるまちづくり、治安の良いまちづくりを推進します。	・横浜市は景観条例に基づいて一律の規制を除外し、オープンカフェに対する長期の許可をエリアマネージメント団体に与え、「ソフトカフェみなとみらい」を運営しています。エリアマネージメント団体である「みなとみらい 21 公共空間活用委員会」は公開空地で実施する店舗から使用料を集め、まちの環境整備やＰＲに活用しています。 ・TX 秋葉原駅近くの有料トイレは 1 回 100 円の使用料でスイカの利用も可能です。通行量の多い場所では清潔で安心な有料トイレのニーズもあります。 ・東京都と警視庁では、都の治安を 10 年前の水準に戻すために、平成 16 年６月から地域ボランティア活動の核となる人材（リーダー・オブ・リーダー）を養成する「東京都安全・安心まちづくりアカデミー」を開講しました。これは、全国で初めての実践型の防犯リーダー養成講座で、警視庁や東京大学とのタイアップ事業です。

○駅前回遊の促進

推進策の概要	他都市の事例
①来訪者が商店街や駅周辺を快適に回遊するための設備や、休息スペースの設置、都市計画道路の整備、バリアフリー化の推進等により、歩きやすく、より長く滞在してもらえる空間の創出を行います。 ②駐輪場を整備することで、駅前や商店街での放置自転車をなくし、歩行者が安心安全に楽しめるまちづくりを目指します。 ③放置自転車を削減するとともに、市民の足を確保し、回遊性を高める方法として、レンタサイクル事業の取組みを検討します。	・富山市は公共交通事業として「バイクシェアリング事業」を導入しています。 【富山市の自転車貸出ステーション】

12 アメリカ発の防犯ボランティア組織で、柏駅前中心に防犯・非行防止を主体に活動している。

○スペースを活用したイベントの開催

推進策の概要	他都市の事例
①ダブルデッキ[13]やウッドデッキで定期的にイベントを開催します。 ②その他の活用できるスペースでも、小規模なイベントを定期的に開催します。 ③かしわインフォメーションセンターと市民活動センターが連携し、イベントや手続き相談の窓口を設置します。 ④ストリートミュージシャン登録制度[14]を活用して多彩なイベントを開催します。	・横浜市では JR 桜木町駅前広場の道路空間を路上イベントのスペースとして活用しています。 【横浜市の JR 桜木町駅前広場】

○柏発の文化・芸術の振興

推進策の概要	他都市の事例
①使われなくなった社宅等を、ミュージシャン、画家、作家、陶芸家、彫金、詩人、俳優、マジシャン等も入居可能なアーティスト用アパートとして活用することを検討します。 ②多くの人が集まる柏駅前に、様々なイベントが開催できる多目的アリーナの整備を検討します。 ③アミュゼ柏[15]及び市民文化会館等の既存施設をオーケストラ等への練習会場として活用を図ります。 【アミュゼ柏のクリスタルホール】	・大分県別府市の NPO 法人・BEPPU PROJECT が運営する「清島アパート」は、アーティストの居住、制作の場として活用されています。利用者は月額 10、000 円で 2 部屋の利用ができ、1 階はプレゼンテーションルームとして公開制作や作品発表の場に、2 階は居住可能なプライベートルームとして活用可能な住宅です。 【別府市の清島アパート】 ・鎌ヶ谷市商業複合型文化ホール「きらりホール」(平成 25 年 11 月 22 日オープン）は「新鎌ケ谷駅」（新京成線）が出来たことにより、市の中心が移動（以前は「初富駅」が中心)。駅前の商業施設の老朽化、近隣の大型ショッピングセンターの開店の影響を受け、商業施設が撤退しました。しかし、地元住民（特に高

13 日本で最初の柏駅東口のペデストリアンデッキ。柏市では「ダブルデッキ」として親しまれている。

14 柏駅周辺でのストリートライブは認定制。認定証を受け取り「柏ルール」を守って音楽活動をしてもらう。

15 クリスタルホールやプラザ（展示）をはじめとする文化施設とコミュニティ活動の拠点となる柏中央近隣センターからなる複合施設

④ジャズ等の多種多様に演奏できるライブハウスの活用を図るとともに PR します。 ⑤市内の小中高等学校の吹奏楽部によるオーケストラバンド行進等のイベントを企画します。 ⑥映画館のスクリーンを活用したイベントを検討しています。	齢者）の要望と、商業施設（イトーヨーカ堂）との共同運営により、ホールのオープンが決定。施設内に市民ホールを併設することにより、建設費を削減することができました。

○回遊性を確保する交通網の充実

推進策の概要	他都市の事例
①あけぼの山農業公園等の観光地に行く個人観光客向けに交通網の整備を行い、交通の便の悪さを解消します。また、観光タクシールートの組成を促進します。 ②他県観光地との鉄道路線の延伸について可能性を検討します。	・山梨県では、バスの替わりにタクシーを使って、短時間でワイナリーをめぐるツアーを行なっています。10 月から 1 月までの土日祝日に運行し、大人一人 3,000 円で利用ができます。また、4 か所のワイナリーを全部回ると、有料試飲が無料になる特典もあります。

○多様な資源の組合せによる滞在型観光の創出

推進策の概要	他都市の事例
①既存の観光資源を組み合わせた複合化プランを提供することで、滞在型観光の提供や柏駅周辺の賑わい創出を図ります。 ②飲食店と連携した食べ歩きイベントとはターゲット層を変えた新しい食のイベントを検討します。 ③駅前飲食店と連携して、柏レイソルの入場券提示による割引サービスの提供や、試合日限定メニューの開発に取組みます。 ④ホテルと連携した「レイトチェックアウト宿泊型観戦プラン」を発売し、滞在型観光を促進します。	・調布市観光協会では、サッカー会場で「おもてなし広場」として美味しい食べ物を提供しています。市内には FC 東京の試合のある日に趣向を凝らしたイベントを行っているお店があります 【FC 東京を応援するお店ののぼり】 ・仙台市内のホテルでは、サッカー観戦のチケット提示により、12 時のレイトアウト料金を無料にするサービスを展開しています。

⑷将来展望

柏市の玄関口である駅前のダブルデッキを賑わいだけでなく清潔感に溢れ、心地よい空間とし、明るく清潔で、安心・安全なまちのイメージを創出します。

柏駅から商店街まで連続したアーケード、都市計画道路の整備や休息スペースの設置、イベントを開催し、まち中を自由に行き来でき、寛げる空間を創出することで、柏市は「おしゃれな街」、「安心な街」というイメージを発信して、来街者を増やし賑わいを創出しています。さらに来て楽しい「大人が楽しめる街」を演出し、リピーターを増やし

ていきます。

ストリートミュージシャンや吹奏楽等の音楽活動がしやすい環境を整えることにより、市民に音楽が浸透していきます。人々が思い思いに行き交う駅前の賑わいを見せる一方で、郊外では落ち着きのある田園風景が広がり、四季折々の花や果実で彩られています。芸術・文化の支援のために用意されたアーティスト用アパートでは、新進気鋭のアーティストたちが創造した作品が全国に知れ渡り、アトリエを訪れる愛好家たちが柏市に集まって来るようになります。

来街者が増えることによる商業地としてのステータス向上を図ることで、来訪者の滞在時間の延長を促し、観光消費額の増加を図っていきます。

4－3　あけぼの山公園周辺の活用促進

(1)現状

あけぼの山公園及びあけぼの山農業公園周辺は、柏北部の観光地として四季折々に咲く花を鑑賞に訪れる観光が訪れています。公園のシンボルである風車を背景に、チューリップやコスモス等、花の見頃の時期にはテレビ等にも取り上げられています。また、園内には四季折々の景色が楽しめる日本庭園があり、その中心には、本格的な茶会も催せる茶室を備えた風情溢れる佇まいの柏泉亭があります。その隣には、関東三大弁天の一つである紅龍山東海寺(通称:布施弁天)があり、多くの参拝客が訪れています。

また、市民が家族で憩えるふるさと広場、農作物の加工や手づくりみそ等を作るための加工実習館が設置されており、多くの市民に利用されています。

芝生広場や遊具等子供が遊べる施設は、家族の憩いの場、子育ての場としても利用されています。平成 25 年 8 月に本計画のためのアンケート調査を実施しましたが、その際にはキッズルームの新設とウォーターランドのイベントが開催されていたことから、子供連れの母親に多く利用されていました。アンケート結果からも、子育て世代である 30 代女性層の利用が 49%と突出しています。

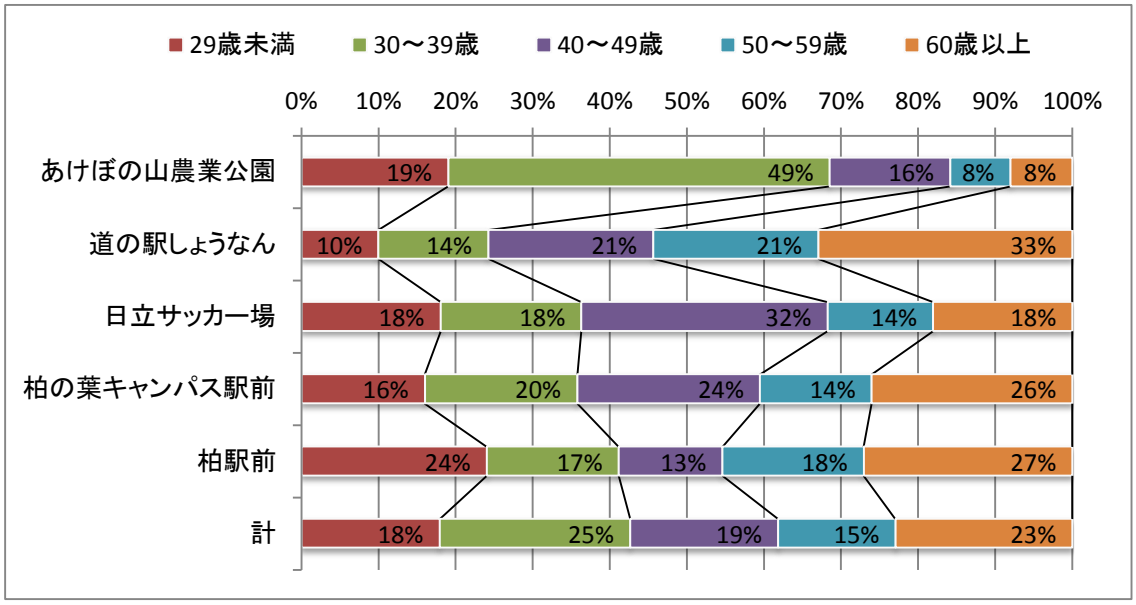


図 4-7　市民（女性）の年代別訪問者率　(n=327)

(2)課題

＜農業公園の施設の積極的活用＞

園内にある施設は、都市計画法で農業振興のための施設と位置付けられており、バーベキューガーデンではレストランのような多様な料理を提供することができません。また、新商品等を加工するためには、現状の加工実習館の利用状況・方法では対応できません。1年を通した活用ができていない状況です。このことから観光客の利便性や収益性の面で課題が多くあります。特に収益モデルがない点が最大の問題と目されています。

＜年間を通じた途切れない花の観賞＞

チューリップやひまわり等花畑一面に咲いている時期の集客力は高く、来園者も多く集まります。

しかし、園内各所で四季を通じ、バラ、アジサイ、彼岸花、日本すいせん、梅が咲いているものの情報発信が不足し、集客に繋がっていません。見頃の異なる草花の複合栽培や散策路を誘導することにより、花をきれいに見せるための工夫や情報発信を検討し、来園者の満足度を高める必要があります。

＜多様な年齢層に楽しまれる施設・サービスの整備＞

市民 88%の人に知られている公園で、家族の憩いの場、子育ての場として広く活用されています。しかしながら、市民アンケートでは、「行くことが減った」は「行くようになった」よりも多く、施設利用の減少が懸念されます。減った理由は、「子どもが大きくなったから」が最も多いことから、子育て後にも楽しい公園としての内容の充実とイメージづくりが必要と考えられます。

また、平成 25 年 10 月にはアスレチックが老朽化により閉鎖され、ファミリー層への訴求力が低下しています。

あけぼの山農業公園	昔からよく行く	行くようになった	行くことが減った	行かない	知らない	計
【市民】	18%	14%	21%	35%	12%	100%
【来訪者】	10%	13%	12%	25%	39%	100%

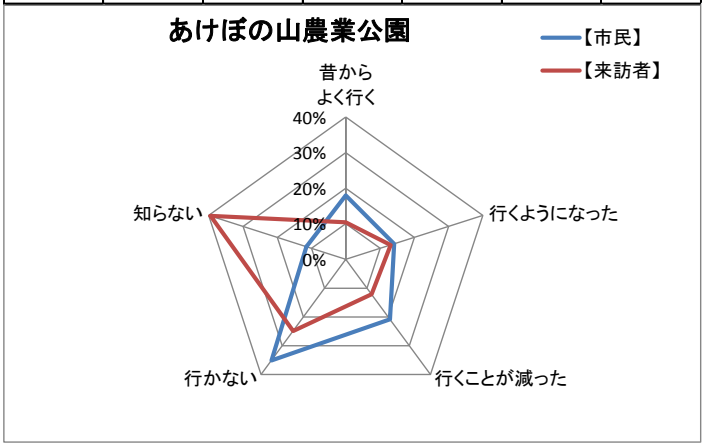


図 4-8　あけぼの山公園の利用頻度

＜公園までのアクセス＞

アンケートでは、あけぼの山周辺で不満に感じることとして、「交通が不便」「シーズンのとき、イベント時の混雑」「バスがもっと便利に使えたらいいのに」という意見がありました。あけぼの山公園周辺の道路は狭く、観光バス等大型車両の通行が困難です。桜の見頃の時期やイベント開催時には、あけぼの山公園までの道路が渋滞して、地元農家の農耕車の通行等住民の利用に影響が出ることもあり、改善策が必要です。

(3)推進策

○1 年を通じた花のある公園

推進策の概要	他都市の事例
①1 年を通じて大規模に花を栽培する等、草花とのふれあいを楽しめる場として演出を行っていきます。 ②季節の花を使った期間限定商品(香水や石鹸、ジャム等)の販売やフォトコンテスト、ライトアップ等花に関連したイベントを開催します。 ③花を育てるボランティアの活用や花をテーマにしたワークショップを開催します。 ④洋風庭園やガーディニング等を整備して、庭園としての魅力を高めるとともに、花畑の中に憩いの空間をつくる等、特別感のある空間を演出します。 ⑤ベビーカーを利用している人や高齢者が歩きやすい遊歩道を整備します。	・八千代市の京成バラ園では、バラの旬の季節以外にも温室や、イベントを通じて、1年中集客があります。バラを使ったジャム、ソフトクリーム、香水等の加工品の販売や季節に合わせてリース作製等のイベント等が行われています。 ・武蔵丘陵森林公園のハーブ園とボーダー花壇では、季節が変わっても花が途切れないように咲かせるよう手入れをし、また少ない数の花の姿も目を引き付けるように、植え方が配列や曲線で演出されており、来訪者に高い満足度を与えています。

○農の強みを活かした収益モデルの確立

推進策の概要	他都市の事例
①都市農業の実験モデル地域として、農業・ガイド・体験プログラムの 3 点を整備します。 ②民間の活力を活用し、足湯等の温浴施設等観光地にふさわしい設備の整備を推進します。 ③バーベキューガーデンを産直レストランに変えて通年営業します。 ④産直レストランは、地元産品を使うだけでなく、地元産品を使った新たな名物を生み出すための場としての機能を持たせます。 ⑤既存の加工実習館を活用し、新たな商品開発を販売目的とした製造を検討します。 ⑥レストラン等の売り上げ増加を図り、維持修繕費の財源を確保した上で、ローラー滑り台や屋内遊技場等、親子で楽しめる施設を整備します。 ⑦押し花づくりや収穫体験等の体験プログラムを導入します。 ⑧芝生広場を活用してサッカーに関するイベントを開催します。	・大阪府富田林市の農業公園サバーファームでは、園内で収穫した野菜をふんだんに使用したかき揚げうどんが人気です。 ・「東葛六市レストランサミット」は柏市、鎌ヶ谷市、野田市、我孫子市、松戸市、流山市に拠点を置くレストランオーナーが地域振興と地産地消の推進や、まちの文化的レストランを創造し、地域社会に貢献するために平成 22 年 9 月に作られた組織です。保育園、幼稚園、小中学校へ出向いて、出汁の味見等本物にこだわった出前授業を行っています。

○交通網の整備

推進策の概要	他都市の事例
①大型バスが進入できるような道路拡幅や改良あるいは新設を行います。 ②将来的にはITS[16]の実証実験を視野に環境にやさしい交通アクセスの導入も検討します。 ③公園への常設案内板を整備します。	・松戸市の観光名所である矢切の渡しに行くには、松戸駅から狭い農道を通る必要がありますが、松戸駅から運行中の京成バス矢切の渡し線を、土曜・日曜、休日の一部時間帯に限り、矢切りの渡し船着場前(停留所「矢切の渡し」)まで延伸しました。 【矢切の渡しまでのバス路線延伸区間】

○自然とふれあう文化体験

推進策の概要	他都市の事例
①花をはじめ園内を案内するガイドを育成します。 ②学校や教育機関に向けて体験型施設の活用をPRしていきます。 ③柏泉亭での茶の湯体験やかまどを活用した陶芸体験を実施します。 【柏泉亭】	・大阪府堺市の農業公園「ハーベストの丘」では、工作のクラフト教室や陶芸体験等子供から大人まで楽しめるメニューを用意しています。 【堺市のハーベストの丘】

16 高度交通システム Intelligent Transport Systems

(4)将来展望

年間を通じて花を観賞できる環境を整備することにより、いつでも花が楽しめる場所として認知され、通年での来園者を確保することができます。産直レストランの営業や特産品の販売、庭園の整備、イベント開催等、花以外の魅力も発信することで多様な世代の来園者増加につながります。ファミリー層や子供の来園者に向けた農業体験や加工実習を加えることで、食育施設としても活用されることになります。

レストランや温泉施設等の有料施設や期間・地区限定品の開発・販売等の収益事業を強化することで、定期的な公園の維持費・整備費用の捻出も可能となります。

当該地区で作付栽培した野菜を使った商品を開発するにあたっては、地元企業に技術協力を要請することで地元を巻き込んだ展開も期待できます。

あけぼの山公園への道路を中長期的に改良あるいは新設することで、柏駅からのアクセスも改善され、路線バスの増便も検討していきます。来園者の利便性が飛躍的に向上します。

4－4　手賀沼周辺エリアの活用促進

(1)現状

手賀沼周辺には優良で豊かな農業地域が広がっており、水田の他野菜や果実の栽培も盛んです。周囲には、道の駅しょうなんをはじめ、梨、イチゴ等の産地直売場も点在しています。また、水鳥の飛来地としても有名です。カワセミをはじめ数多くの水鳥が観察される場所でもあり、バードウオッチングを楽しむ人々も多く集います。

明治のころの手賀沼を愛する人々として白樺派の文学人が来訪する等、歴史的・文化的側面からも価値があり、手賀沼自体が非常に多面的な観光資源であるとも言えます。その自然環境にひかれてサイクリングやランニングの愛好家が増加し、近年は市民に愛される水辺環境へと変化してきています。

かつては生活排水により沼の水質がひどく汚染されていました。しかし、周辺住民や、自治体、県、国の不断の努力により、平成 16 年には「水質改善ベスト1」を実現しました。手賀沼の水質改善に伴い、ヨットやトライアスロン等ウォータースポーツも実施されるようになりました。

また、手賀沼周辺の農業地域では、とうもろこしや枝豆、長ネギ等の収穫、さらに田植えから稲刈りまで一貫した米作体験が行われており、土に触れあう機会が少ない方々や子ども会・幼稚園の体験行事に喜ばれています。現在は地元農家の方々が協力して柏産の農作物を使った農家レストランの計画が進められています。

(2)課題

＜手賀沼の水辺環境＞

手賀沼の水質は以前に比べ大幅に改善されましたが今後、益々の環境美化と水質改善を進めていくことが必要です。手賀沼の姿は、手賀沼で開催される花火やマラソン、ヨット等で訪れる方の印象が強く残ります。柏市は都市のイメージが強いですが、一方で地域に残る貴重な自然環境の魅力をさらに伝えていく必要があります。我孫子市の水鳥の保護同様に、柏市が周囲の市と連携し、手賀沼の環境保全に積極的に関わっていくことで、手賀沼の環境美化はより強固な取組みとなり得ます。

手賀沼エコマラソン

＜周辺施設の未活用＞

手賀沼周辺には、千葉県立手賀の丘少年自然の家や手賀沼フィッシングセンター等、自然と触れ合える施設があります。柏市の自然を広く知ってもらい、手賀沼の自然を保全する観点からも、これらの施設を有効活用していくことが大切です。

現代に続くその貴重な自然環境を守るためにも、観光施設の整備は環境に十分配慮したものでなければなりません。観光施設の整備を検討するに際し、市民や自然環境に興味を持った人々が集い、この地域の自然を守れる仕組みによって、施設の活用を考えていくことも必要です。

＜手賀沼周辺の環境整備＞

手賀沼周辺は、水質の改善とともに、サイクリングやランニングを楽しむ人が増え、水辺を楽しむ市民が数多く集うようになりました。

最近はその水辺を活用したイベントも増えてきており、受入体制の整備も必要になってきています。アンケートでは、手賀沼周辺について、サイクリングコースにレンタサイクルが少ないことや、売店、レストランがないという声がありました。来訪者の拠点となる場所が少ない状況で、サイクルポートやヨット等の係留施設、トイレ等スポーツ利用者にとって必要な施設整備も十分でありません。来訪者が寛ぐための最低限の施設整備も重要な課題と言えます。

＜農業エリアとの連携不足＞

手賀沼の自然環境はもちろん、手賀沼南部に広がる農業地域の保全は、地域の環境整備の観点からも非常に重要です。昔から肥沃な農地を活用した農業が盛んなこの地域は、古くは江戸時代の新田開発にまで歴史がさかのぼります。その際に開通した下総鮮魚街道（しもうさなまかいどう）は、地域のにぎわいを更に活気づけ、江戸と手賀沼地域を結ぶ一大ルートとして発展しました。現在でも都市近郊型の農家があり、首都圏の台所の役割を担っています。しかし、その生産の現場と地域とのつながりは薄く、柏市全体で農を感じる場所は道の駅しょうなん等、限られた場所になっています。地域の恵みを市内外の人々に紹介する場を増やし、都心に近いところにいながら、土の香りを味わうことが出来るメリットを、柏市の強みとして活用するに至っていません。農の強みを地域の観光資源として活用していくことも重要な要素です。

＜柏産農産物の認知不足＞

柏市内で生産された農産物は、首都圏を中心に流通しています。また、柏市外から訪れる人々の認知度は高くない状況です。道の駅しょうなん農産物直売所や今採り農産物直売所「かしわで」での地域産品の販売を市域全体に展開する仕組みづくりや市内飲食店での地元野菜を使った料理を提供すること、加工品を市内商店街でも販売する等、地域の食を地域内で循環する仕組みづくりが必要です。

＜周辺自治体との連携の必要性＞

手賀沼の観光を PR するためには、周辺自治体との連携が必要です。我孫子市や印西市等と連携して設置した「手賀沼・手賀川活用推進協議会」の活動を基に、それぞれの観光資源を相互に結び付けて、周辺自治体と連携したエリアプロモーションが今後の展開の中では重要な位置付けとなります。

また、手賀沼周辺の生態系の保全活動と学びの連携を進めることが重要です。

(3)推進策

手賀沼の環境保全活動を積極的に推進するとともに、手賀沼南部に広がる農業を活用した、農ある暮らしづくりと連携し、具体的に以下のような取組みを検討していきます。

○自然環境を活かした観光への取組み

推進策の概要	他都市の事例
①手賀沼をキーワードとした広域観光の検討を行います。 ②地域の児童・学生による自然環境勉強会の開催とサポーター化を検討(広域観光ガイドへの足がかり)します。	・茨城県霞ケ浦を中心に活動するＮＰＯ法人は、その活動の幅を日本全体、地球全体へと広げ、グローバルな広域ネットワークを構築しています。地域が取り組むべき課題である水辺環境整備や水質浄化事業への住民協働参加促進等を積極的に推進する一方で、定期的に日本各地や世界との連携を深めています。

○手賀沼とその周辺の整備と啓発

推進策の概要	他都市の事例
①手賀沼の自然の重要性を啓発するイベントを定期的に開催していきます。 ②自然景観を守る活動を定期的に開催します。 ③既に行われているイベント開催時に、環境関連のテーマを加えていきます。 ④ハスの群生地の整備を行います。 ⑤自転車利用者の利便性を向上するため、サイクルポートなどの設備を整備します。 ⑥トイレの増設を検討します。 ⑦環境負荷の少ないウォータースポーツとして、カヌーやヨットを楽しむための係留施設及び付帯施設の整備を検討します。 ⑧手賀沼と利根川水系を巡る観光船の就航を目指します。 ⑨手賀沼を知ってもらうための案内標識等を整備していきます。 ⑩環境学習のため、手賀沼エリアのビオトープ化を推進します。 ⑪フットパス[17]の導入を検討します。	・長野県諏訪市では、企業やNPOと連携した環境プログラムを実施、ボランティアと観光を絡めた集客により、来訪者を地域をともに守るサポーターとして活用する取組みを行っています。 ・東京都町田市では、フットパスをＮＰＯと協同で運営し、自然を楽しむプログラムやコースガイドマップを作成、地域の自然を守りながら、都心の来訪者を受け入れる仕組みづくりを行っています。マップは有料販売し、その運営に充てています。 【まちだフットパスガイドマップ 2】

○手賀沼周辺施設の利活用

[17] イギリスを発祥とする“森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くこと【Foot】ができる小径（こみち）【Path】” のこと

推進策の概要	他都市の事例
①柏市内外に向けて道の駅しょうなん等手賀沼周辺施設の情報発信を強化します。 ②手賀沼フィッシングセンター内の施設を有効活用していきます。 ③千葉県立手賀の丘少年自然の家・手賀の丘公園及びキャンプ場を有効活用していきます。 ④手賀沼周辺施設を活用した市民・来訪者の交流事業を促進します。	・我孫子市では、生涯学習センターと一体となった公園を整備し、手賀沼の風景をゆったりと見られるように、あずまやとベンチを設置しています。広場には遊具と砂場があり、ミニSLの運行とレンタサイクルの貸し出しが行われています。 【我孫子市の手賀沼公園】

○農業エリアの賑わい創出

推進策の概要	他都市の事例
①地元産の野菜を活用する農家レストランを設置します。 ②農家住宅を活用した農業振興と交流拠点整備を図ります。 ③体験農園に必要なトイレや駐車場などの付帯整備を検討します。 ④生産者との交流を目的とした収穫体験等の交流イベントを検討します。 ⑤道の駅や地域商店街と連携し、柏の農業体験の情報発信を強化します。	茨城県笠間市では、都心からのアクセスを活かした市民農園を開設し 10 余年。地域観光との連携や生産者との関わりが深まった人々を中心に、農を活用した体験型観光を進めています。

○柏産野菜・果物の有効活用

推進策の概要	他都市の事例
①商工業者等と連携して農作物の加工品を開発し、6 次産業化を図るとともに、柏の名産品を開発します。特に、ブランド力のあるものを組み合わせる等、柏の特徴を活かしたオリジナル色の強い名産品の開発を目指します。 ②柏産野菜にレシピ等の付加価値を付け、来訪者にわかりやすく伝える方策を検討します。	・さいたま市では、地元若手生産者と行政、飲食店関係者等が集まり研究会を発足、飲食店が求めるヨーロッパ野菜を生産者が創り、安定供給する仕組みを構築、わずか 1 年で、都心有名レストランからの引き合いがある等、地元野菜のブランド化を進めています。

○シティーセールスの強化

推進策の概要	他都市の事例

①グリーンツーリズム、エコツーリズムを推進し、来訪者の呼び込みを行うとともに、地域のブランド力向上を図ります。	・茨城県取手市では、ベッドタウンとして発展した中心地以外の農村環境に着目し、自然の残る都市型グリーンツーリズムの推進地域であることを、市のプロモーションに活用しています。

(4)将来展望

手賀沼周辺の環境を守り、手賀沼の自然を活かした暮らしを柏市内外の人々と共有するプログラムを展開していくことにより、地域に密着した持続可能な交流を創造していきます。野鳥を守る我孫子市の取組み等、周辺市と並行して、野鳥が住みやすい自然環境を整備する柏市の動きが浸透していけば、野鳥のサンクチュアリとしての手賀沼の位置付けが今以上に存在感を増し、全国的にもその知名度もさらに上がります。

近年、サイクルポート等の取組みが他市でも増えてきています。柏市でも自転車利用者が増加すれば、将来サイクルトレインの実施も検討できます。これにより、手賀沼周辺への交通アクセスの環境負荷軽減やエコイベントの同時開催等、環境を考えるイベントと手賀沼の賑わいの醸成を行うことが可能となります。さらには、イベント開催時に地元農家からの生産物や加工品を販売する場を設け、手賀沼マルシェ(仮称)等を併設し、集客時に柏の農ある暮らしや新鮮でおいしい食のアピールも行います。

さらに、ヨット等の係留施設を整備することにより、首都圏から一番近い水辺空間として手賀沼が有効活用でき、優良な景観が観光資源となることが期待できます。

また、都心から 30km圏内という位置付けの強みを活かし、農業に従事する生産者の顔を今以上に積極的に魅せることにより、柏産野菜や果物、さらには生産者が特定された野菜や果物が簡単に手に入る仕組みづくりやその野菜を一次加工し、柏市内の飲食店等で提供とする仕組みを作ることにより、地域内への外部(来訪者)からの資金流入を生み出し、観光・集客による柏市の農業の六次産業化も可能となります。

手賀沼・手賀川活用推進協議会の活動を通じて近隣自治体との連携を強化し、手賀沼の観光振興を推進していきます。

4-5　柏の葉エリアでのビジネス型観光の強化

(1)現状

平成 17 年 8 月に開通したつくばエクスプレスの沿線では、鉄道の整備と一体的となったまちづくり(一体型土地区画整理事業)が行われています。柏の葉キャンパス駅周辺では、平成 18 年 11 月に最初の大規模商業施設が開業し、その後、マンション、銀行、病院等、施設の立地が進み、平成 26 年以降、東京大学駅前棟をはじめ、ホテル賃貸住宅、商業・業務施設からなる複合学区がオープンします。

平成 20 年 3 月に千葉県、柏市、東京大学、千葉大学の 4 者によって、国際学術研究都市・次世代環境都市の実現を目標とした「柏の葉国際キャンパスタウン構想」が策定され、公民学連携による先進的な取組みが進められています。平成 23 年 7 月には、環境エネルギー問題等の社会的課題にまちづくりとしての解決モデルを提示していく「『世界の未来像』をつくるまち」というコンセプトを発表し、同年 12 月には国から環境未来都市、地域活性化総合特別区域の指定を受けています。

一方、最先端の技術とコミュニティの力で環境問題をはじめとする社会課題を解決し、豊かな未来を築くためのまちづくりである、環境未来都市の実現に向けた整備が進められており、近年注目が高まっています。

また、東京大学、千葉大学、柏の葉アーバンデザインセンター(以後、「UDCK[18]」と表記)、東葛テクノプラザ[19]、東大柏ベンチャープラザ[20]、国立がん研究センター東病院等公民学連携の核になる施設等が集積しています。

その他、つくばエクスプレス沿線を中心に起業家やベンチャー企業の活動を支援しているTXアントレプレナーパートナーシップ[21]の拠点やUDCKが行っているまちづくりスクール等、まちづくりに関する勉強会や活動が盛んな地域です。

(2)課題

＜MICE の誘致＞

全国各地でMICEの誘致が取組まれていますが、大規模なコンベンション施設での開催だけでなく、大学の施設で開催されるものも数多くあります。柏の葉キャンパス駅周辺地域には、東京大学、千葉大学、東葛テクノプラザ等の学術研究機関が集積しています。今後、大学やホテル等の既存施設を活用したMICEを誘致していくことが必要です。

18 柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) は柏の葉から都市の未来を描く公・民・学の連携によるまちづくり拠点

19 千葉県の企業支援施設。東京大学柏キャンパスをはじめとする千葉県内理工系大学や産業支援技術研究所等との連携のもとに、技術面や経営面にわたって幅広く各種事業を展開している

20 国の大学連携型起業家育成施設

21 つくばエクスプレス沿線の研究者・起業家と、メンター・エンジェル等ビジネスパートナーのチーム組成をサポートし、起業家を支援する環境を整備することにより、ベンチャー創業や成長を支援する民間団体

＜スマートシティ視察の受入態勢の整備＞

UDCKでは年間 300 件を超えるスマートシティの視察を受け入れています。スマートシティの計画、建設が進む中で、今後も視察希望が増加されるものと思われますので、民間ノウハウを活用し、受入態勢を整備することが必要です。

＜柏駅等への交通網の整備＞

学会やスマートシティの視察に訪れた人は、TXを利用して都内に行くことが多く、柏駅周辺に行く機会が少ない状況にあります。事業者向けアンケートで柏市の重要な観光要素を聞いたところ、「道路、案内標識、駐車場等の整備や公共交通機関の利便性向上」が 53%と最も多く、柏駅と柏の葉間キャンパス駅のアクセスの向上もあげられています。柏駅から柏の葉キャンパス駅までの直通バスが少ないことが原因と考えられます。

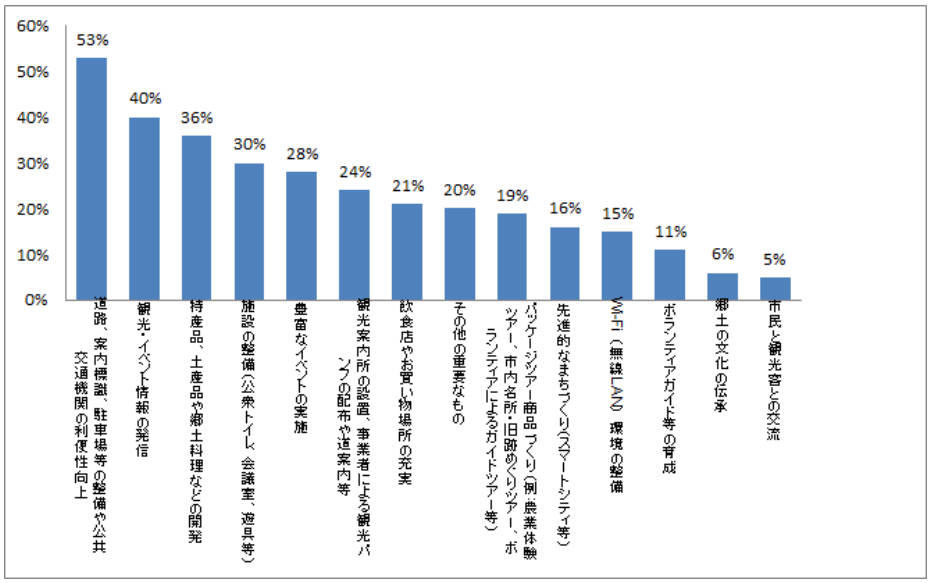


図 4-1　重要な観光要素（柏市内事業者）

＜外国人の受入態勢整備＞

柏の葉キャンパス駅周辺は、東京大学の留学生や、学会等で訪れる外国人が数多くいます。

しかし、外国語表記の案内板やインフォメーションセンター等が未整備で、外国人の受入態勢が十分とは言えません。今後、MICEの誘致に取り組む中で、来訪者に観光を楽しんでもらうためにも、市内全域で受入態勢を整備していく必要があります。

＜空港への交通網の拡充＞

羽田空港からはバス便がありますが、都心から同距離にある立川駅と比べると、立川駅から羽田空港まで平日1日 15 便あるのに対し、柏の葉キャンパス駅から羽田空港へは1日 9 便です（羽田空港から柏の葉キャンパス駅へは 13 便）。また、成田空港・茨城空港から柏の葉キャンパス駅を結ぶ直通の交通手段がありません。利便性の向上のため、新規の運行ルートの開発と同時に既存のバス便の増便も検討が必要です。

(3)推進策

○ＭＩＣＥの誘致

推進策の概要	他都市の事例
①大学や企業支援機関等が実施する柏の葉キャンパスで研究が進んでいる会議や学会等を誘致します。 ②MICEを誘致するための組織に情報提供や支援を行います。 ③海外からの集客力を高めるため、海外の姉妹都市を活用する等、海外でのPR活動を行います。 ④市民が参加できるイベントやUDCKが主催する活動等を積極的に支援します。	・札幌市は今後5年間の目標と施策をまとめた「札幌MICE総合戦略」を平成22年11月に策定しました。国際会議の開催件数を平成21年度の5年後に100件に、MICEの市場規模を470億円から5年後に570億円へ増大する目標を掲げています。

○柏らしいアフターコンベンションの促進

推進策の概要	他都市の事例
①飲食店や宿泊施設の情報提供やコンベンション参加者への特典提供等により、滞在型観光を促進します。 ②柏の葉キャンパス駅と柏駅を直結する交通網を整備し、柏駅の商業機能を活かした両地域の人的交流を促進します。 ③将来的に最先端技術と農や自然との融合による柏らしい環境特化型のツアーに結びつけます。 ④企業と連携した新産業・新技術見学ツアー、東葛テクノプラザ見学ツアー、東京大学や千葉大学と連携した先端技術・環境・エコツアー等、地域の特色を活かしたオリジナルツアーを実施します。 ⑤モニターツアーを実施して、参加者の意見を反映し、ツアー内容を改善します。	・つくば市では、約 50 ある研究教育機関の研究開発の成果を、じかに見学・体験することが出来る「つくばサイエンスツアー」を実施しています。 ・相模原市のJAXA（宇宙航空研究開発機構）相模原キャンパスでは、実物大の小惑星探査機「はやぶさ」の模型やロケット、衛星の模型等を展示し、見学ができます。10名以上の団体には説明員による見学ツアーを実施しています。 ・横浜市にあるキリンビールの製造工場は、コンベンションのパーティを開催することができます。工場見学（約 1 時間）を組み合わせことも可能で、1 回のツアーに最大 100 名参加できます。

○コンベンション誘致に関する交通整備

推進策の概要	他都市の事例
①柏の葉キャンパス駅に快速電車が停車できるようTXに要望します。 ②路線バスの増便や観光バスの発着に対応するため、ルートを確定した上でバス発着場の整備を検討します。 ③柏の葉キャンパス駅から成田空港・茨城空港への直通バス路線の可能性を検討します。また、羽田空港への直通バスの増便を検討します。 ④県民プラザ[22]や東葛テクノプラザ等で行われるイベント等の交通手段として、シャトルバス等の発着を検討します。	・神奈川県葉山町の湘南国際村センターは横浜駅から直行バスが運行しています。また、JR逗子駅から路線バスのチャーター手配サービス(有料)を実施しています。 【葉山町の湘南国際村センター】

○柏の葉キャンパス駅周辺でのイベントの周知

推進策の概要	他都市の事例
①TX 開通 10 周年を迎える平成 27 年に記念イベントを開催します。 ②マルシェコロール等イベントを効果的に周知します。	

[22]さわやかちば県民プラザは、千葉県教育委員会の運営する複合施設。柏の葉公園の一角にある。生涯学習センターと芸術文化センターの機能を持つ。

○柏の葉地区を拠点としたインフォメーションセンターの設置

推進策の概要	他都市の事例
①国際会議や学会、コンベンション参加者の交流人口が増えることが予測されるため、観光情報窓口として多言語対応もできるインフォメーションセンターを設置します。 ②MICE の増加や 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、かしわハート大使や等の個人やまちづくりに熱心な団体の協力を得ながら、市民の参加を募って観光ボランティア講座を開始し観光客の受入態勢を整備します。	・東京都では、都内約 150 ヵ所に観光案内窓口を設置して、無料のガイドブックや東京の地図の他、多くの観光情報を提供しています。 【東京都観光窓口のロゴマーク】

○柏を訪れる外国人の受け入れ案内整備

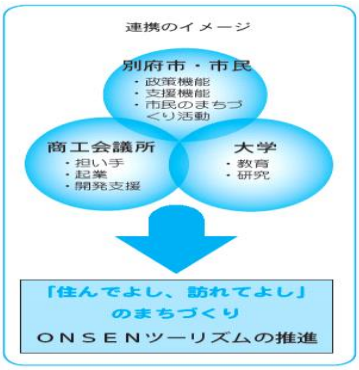
推進策の概要	他都市の事例
①外国語に対応したパンフレットやホームページ等を作成します。 ②外国表示の案内板の設置やICT[23]活用による案内、通訳ボランティアガイドの育成を支援します。 ③Wi-Fi の整備を行い、外国人観光客の無線 LAN 環境を整備します。 ④多様な食文化・食習慣を有する外国人客の対応として、ホテルや飲食店における宗教食の提供を促進します。	・平成 21 年の日本政府観光局(JNTO)の調査では、観光案内所を利用する外国人旅行者が感じる不便・不満のトップは、標識(案内板、道路標識、地図)での外国語表示の不足(37.3%)でした。最近では、文具メーカーが紙媒体にタッチすると多言語対応で音声情報が流れるペンが、中尊寺や日光東照宮で利用されています。 ・成田空港を利用する外国人向けのおもてなしとして、宗教食についての勉強会が開かれています。食のみならず、宗教についての知識を学ぶ機会が必要となってきています。

○スマートシティツアーの活用

推進策の概要	他都市の事例
①スマートシティの視察に対応するため、旅行会社と連携してツアーの受け入れ態勢を整備します。	・香川県高松市の高松丸亀町商店街では、現在大規模な再開発事業を進めており、旅行会社と連携して視察を受け入れています。年間 13,000 人が視察に訪れています。

[23] Infomation and Communication Technology の略称で、IT と同じ意味で用いられている。

○大学や企業と連携した観光推進体制の構築

推進策の概要	他都市の事例
①先端技術、新産業企業、大学の研究を見学するツアーを旅行会社等と連携して検討します。 ②地域に暮らす人々が、企業、大学と連携・交流する中で、専門的な知識を身に付けたボランティアガイドの育成を図ります。	・別府市では、商工会議所とともに地域の教育研究機関である大学と協定を結び、「産・学・官　協働のまちづくり」を地域の資源である温泉を中核に健康づくりやスポーツ、アートを振興し、地域活性化や都市景観づくり、国際交流等を実践するONSENツーリズムを推進しています。  【別府市の産・学・官の連携イメージ図】

(4)将来展望

MICE が頻繁に開催されることにより、飲食業や宿泊業を中心に経済効果が見込まれます。柏の葉キャンパス駅と柏駅の交通網を整備することで、会議出席者等が柏駅周辺の小売・飲食店を利用しやすくなり、2 拠点で賑わい創出と滞在時間の延長が見込まれます。さらに、外国人来訪者が増えることにより経済効果と文化的交流が進みます。

スマートシティの開発から効果検証や実績等をツアーで紹介することにより、リピーターを呼ぶことができるスマートシティツアーを継続的に実施します。都市間競争が激しくなっている今、誇りのあるまち・柏をつくるため、官民協同でのシティプロモーションによるイメージアップを推進することで定住人口が増加します。

技術を持った企業や工場の見学を実施することでシビックプライド醸成につながります。

第 5 章　計画の目標と推進体制

5－1　柏市観光計画の目標

＜具体的目標＞

第 4 章の推進策を実施することにより達成する目標を短期（平成 26～29 年)、中期（平成 29～31 年)、長期（平成 31 年以降）の 3 期に分けて設定します。

	基準年 （平成 23 年）	短　期 （平成 26～29 年）	中　期 （平成 29～31 年）	長　期 （平成 31 年以降）
観光入込客数	2,828,871 人	3,139,000 人	3,250,000 人	3,545,000 人
宿泊客数	182,500 人 （入込数の 6.5%）	219,730 人 （入込数の 7%）	243,750 人 （入込数の 7.5%）	283,600 人 （入込数の 8%）
ＭＩＣＥ開催回数	4 件	6 件	8 件	12 件
市民満足度	―	満足度調査開始	満足度+5%	満足度+10%

※目標数値は、短期は平成 29 年、中期は平成 31 年、長期は平成 36 年の数値を記載した。

~~※観光入込客総数の伸び率は、平成 18 年から 22 年の柏市観光入込総数の前年比（マイナスの年を除く）の平均値（+3.5%）を適用した。~~

※宿泊客数は、基準年の比率（観光入込総数の 6.5%）を基に短期は 0.5%、中期は 1%、長期は 1.5%を加算して算出した。

※MICE 開催回数は、観光立国推進基本計画（平成 24 年）で平成 28 年までに 5 割以上増やすことを目標としていることから、短期は 5 割、中期は 2 倍、長期は 3 倍の増加率とした。なお、開催回数は政府観光局統計を適用し、国際会議を対象とします。

＜目標を達成するための主な取組み＞

数値の達成時期は 5-2 の事業スケジュールとする。

＜１．観光入込客増加の取組み＞

・視察ツアーを年間 3 回受入れる
・レイアウトチェックアウトプランを年間 20 回実施
・柏駅周辺エリアで小規模イベントの定期開催
・食べ歩きイベント年間 2 回実施
・あけぼの山公園で花のイベント、フォトコンテスト年間 2 回実施
・産直レストランの通年営業及びイベント等の周知強化により、あけぼの山公園入込数 1 割増加
・手賀沼エリアで自然啓発イベント実施
・手賀沼エリアで収穫体験等交流イベントの実施
・大学・企業による会議・学会を年に 20 回開催
・飲食店の特典提供による滞在型観光促進
・企業と連携したオリジナルツアーを年 5 回実施

＜２．満足度向上の取組み＞

・イベントの意見集約システム構築
・ポータルサイトの構築
・こんぶくろ池の生態系の市民への周知
・カタクリ、桜、牡丹の環境保全と市民への周知
・オープンカフェの開催
・柏駅前に子供の楽しめる空間整備
・柏駅前にアーケードやベンチの整備
・柏駅周辺でのバリアフリー化推進
・柏駅周辺の駐輪場の整備
・あけぼの山公園に花の大規模栽培
・あけぼの山公園で花のワークショップ開催
・あけぼの山公園に洋風庭園・ガーディニングを整備
・手賀沼エリアに駐車場、トイレ、休憩所の整備
・ハスの群生地整備
・柏の葉エリアでの市民参加イベント支援
・柏の葉駅から成田・茨城空港直通バスの検討
・柏の葉駅から羽田空港への直通バス増便推進

5－2 観光振興の推進体制

平成19年(2007年)1月に施行された「観光立国推進基本法」では、観光立国の実現にあたり、国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、住民の役割や観光事業者の役割を定めています。

本計画の推進にあたっては、観光サービス提供者だけでなく、多様な主体が参画できるような環境整備が必要となります。市は、取組むべき事業を検討し、市民や関係する事業者とともに事業を進めていくこととします。

市民との連携や公民学連携、観光協会や関係団体、農業や商工業の事業者、民間事業者等、互いの持ち味を活かしながら、一体となって柏市の観光振興に取組み体制づくりを構築していきます。

5-3 推進策のスケジュール

推進策に対するスケジュールは、以下のとおりです。

推進体制は、推進主体を市、市民(市民団体を含む)、関係機関・団体(柏市観光協会、柏商工会議所、柏市沼南商工会等)、民間事業者に細分化しています。

また、事業スケジュールは、事業の着手期間を定めており、実施できる事業や早急に着手しなければならないものは短期、検討や調整を図り、長い期間で取組みをしていかなければならないものは、中期・長期に位置付けしました。

推進策			推進体制				事業スケジュール		
			市	市民	関係機関・団体	民間企業	短期（～3年間）	中期（3～5年間）	長期（5年～）
推進策1 柏市全域での取組	優れた技術力を持つ地元企業の活用	視察ツアーの受入れ				●	→		
		歴史的遺産の活用による商品開発	●	●	●	●	→	→	
	スポーツクラブ・チームの積極的活用	ホームゲームによる集客			●	●	→		
		スポーツファンの交流イベント実施			●	●	→		
		オリンピックキャンプ地の誘致	●		●	●	→	→	
	観光プロモーション活動の推進	拠点間の公共交通やサイクルロード等整備	●			●			→
		バス路線の新設と停留所の名称見直し検討		●	●	●	→		
		ロケ地の誘致	●		●		→		
		大規模野外イベントの開催	●	●	●		→	→	
		吹奏楽部との連携プロモーション	●		●		→		
		テレビドラマ活用のプロモーション	●		●	●	→		
		柏ウイスキーのPR	●		●	●	→		
		柏をイメージした商品開発	●	●	●	●	→	→	
		公設市場の賑わい創出	●				→	→	
	情報発信の充実	まち歩きマップの作成	●	●	●		→	→	
		デジタルサイネージによる情報発信	●		●	●	→	→	→
		農業分野に関する情報発信	●	●	●	●	→		
		多様な媒体による情報発信	●		●	●	→	→	→
		民間活力活用による情報収集		●	●	●	→	→	
		広報かしわのイベント情報充実	●	●	●		→		
	市民・来訪者の地域参加促進	ポータルサイトの構築	●			●	→	→	→
		ボランティア制度の活用 観光ガイドの育成	●	●	●		→	→	
		モニター制度の構築	●	●	●	●	→	→	
		地元愛強化と街の美化	●	●	●		→		
	歴史文化財、文化芸能の保全とシビックプライドの定着	柏郷土資料展示室の周知	●				→		
		こども図書館の周知	●				→	→	
		伝統行事を紹介	●		●		→		
		昔話や芸能伝承の音声・映像記録	●	●	●		→		
		茅葺屋根修繕見学ツアー	●		●		→	→	
		旧吉田家への観光バス進入の緩和	●				→	→	
		文化財保全の財源確保	●		●		→	→	
		市内まち歩きマップの作成	●	●	●		→		
		柏の葉公園の活用促進	●		●		→		
		こんぶくろ池の生態系市民周知	●	●	●		→		
		サクラ，カタクリ等の名所の環境保全	●	●	●		→	→	
		ボランティアの組成	●	●	●		→	→	

推進策			推進体制				事業スケジュール		
			市	市民	関係機関・団体	民間企業	短期（？3年間）	中期（3～5年間）	長期（5年？）
推進策2 柏駅周辺エリアの都市型観光の推進	来街者の受け入れ態勢の強化	空地を活用したオープンカフェの設置			●	●	→		
		子育て世代が来訪しやすい環境整備	●		●	●	→	→	→
		WI-FIスポットの設置	●			●	→	→	→
		多言語マップ・パンフレットの充実	●	●	●	●	→	→	
		公衆トイレの改築促進	●			●	→	→	
		関係者と連携して治安対策強化	●	●	●		→		
	駅前回遊の促進	アーケードやベンチの整備	●		●	●	→	→	
		バリアフリー化の推進	●		●	●	→	→	→
		駐輪場の整備	●			●	→		
		レンタサイクルの設置	●		●		→		
	スペースを活用したイベントの開催	ダブルデッキ等でのイベント開催	●	●	●	●	→		
		小規模イベントの定期開催	●	●	●	●	→		
		イベント相談窓口の設置			●		→	→	
		ストリートミュージシャン登録制度活用			●		→	→	
	柏発の文化・芸術の振興	アーティスト用アパートの提供	●			●	→	→	→
		多目的アリーナの整備検討	●			●	→	→	
		既存ホールのオーケストラ等への提供	●				→		
		ライブハウスの活用	●		●	●	→	→	→
		吹奏楽等のイベント	●		●		→		
		映画館のスクリーン活用			●	●	→		
	回遊性を確保する交通網の充実	観光地の交通網整備	●			●	→	→	
		観光タクシールートの組成				●	→	→	→
		他県観光地との直通ルートの実現				●	→	→	→
	多様な資源の組合せによる滞在型観光の創出	既存の観光資源複合化プランの提供			●	●	→	→	
		食べ歩きイベントの開催		●		●	→		
		柏レイソルと飲食店の提携				●	→		
		レイトチェックアウトプランの発売				●	→		

推進策			推進体制				事業スケジュール		
			市	市民	関係機関・団体	民間企業	短期（？ 3年間）	中期（3～5年間）	長期（5年？ ）
推進策3 あけぼの山公園周辺の活用促進	1年を通じた花のある公園	花の大規模栽培などの演出			●		→		
		フォトコンテスト、花のイベント実施			●	●	→		
		花をテーマにワークショップの開催		●	●	●	→	→	
		洋風庭園・ガーデニングの整備			●		→	→	
		高齢者も歩きやすい遊歩道整備	●				→	→	→
	農の強みを活かした収益モデルの確立	農業・ガイド・体験プログラムの整備	●		●	●	→	→	→
		民間活力活用による足湯の整備				●	→	→	
		直産レストランの通年営業				●	→	→	
		直産レストラン活用による商品開発		●	●	●	→		
		加工実習室を活用した商品開発		●	●	●	→	→	
		ローラー滑り台や屋内遊技場の整備	●				→	→	
		体験プログラムの導入			●	●	→		
		芝生広場でのサッカーイベント実施			●	●	→	→	→
	交通網の整備	道路拡幅工事による大型バス受入れ	●				→	→	
		ITS実証実験を視野に新交通網検討	●				→	→	→
		あけぼの山公園への案内板整備	●				→		
	自然と触れ合う文化体験	園内を案内するガイドの育成	●	●	●		→		
		教育機関に体験型施設プロモーション	●		●		→		
		柏泉亭での茶の湯体験、陶芸体験	●		●	●	→		

推進策			推進体制				事業スケジュール		
			市	市民	関係機関・団体	民間企業	短期（？ 3年間）	中期（3～5年間）	長期（5年？ ）
推進策4 手賀沼周辺エリアの活用促進	自然環境を活かした観光への取組み	児童・学生による自然環境勉強会開催	●	●	●	●	→	→	
		児童・学生のサポーター化検討	●	●	●	●	→		
	手賀沼とその周辺の整備と啓発	自然啓蒙イベントの実施	●	●	●	●	→	→	
		自然景観を守る活動の定期実施	●	●	●	●	→		
		既存のイベントに環境関連のテーマを付加	●	●	●	●	→	→	
		ハスの群生地整備	●				→		
		サイクルポート整備	●			●	→		
		トイレの増設	●				→	→	
		ヨット・カヌーの係留付帯設備の整備	●				→	→	
		手賀沼と利根川水系を巡る観光船の就航			●	●	→	→	
		案内標識板の整備	●				→	→	→
		手賀沼エリアのビオトープ化推進			●	●	→	→	
		フットパスの導入検討		●	●	●	→		
	手賀沼周辺施設の利活用	手賀沼周辺施設での情報発信強化	●		●		→		
		フィッシングセンター内の施設の有効活用			●	●	→		
		県立手賀の丘少年自然の家等の活用			●	●	→	→	
		周辺施設活用による市民の交流事業促進	●	●	●	●	→		
	農業エリアの賑わい創出	地場産野菜活用の農家レストランの設置	●		●	●	→	→	
		農家住宅を活用した農業振興と交流拠点	●		●		→		
		体験農園の付帯整備	●		●	●	→	→	
		収穫体験等の交流イベント	●		●	●	→		
		道の駅等での農業体験の情報発信	●		●		→	→	
	柏産野菜・果物の有効活用	商工業者と連携した農作物加工品の開発	●	●	●	●	→	→	
		柏産農産物を使った特産品開発	●	●	●	●	→		
		農産物に付加価値をつけた情報発信	●	●	●	●	→		
	シティーセールスの強化	グリーンツーリズムの推進	●		●	●	→	→	
		エコツーリズムの推進	●		●	●	→	→	

推進策			推進体制				事業スケジュール		
			市	市民	関係機関・団体	民間企業	短期（～3年間）	中期（3～5年間）	長期（5年～）
推進策5 柏の葉エリアでのビジネス型観光の強化	MICEの誘致	大学・企業による会議・学会の誘致	●		●	●	→		
		誘致組織への情報提供や支援	●		●	●	→		
		姉妹都市活用などによる海外でのPR活動	●		●	●	→		
		市民参加イベント等の支援	●	●	●	●	→		
	柏らしいアフターコンベンションの促進	飲食店の特典提供による滞在型観光促進				●	→	→	
		柏駅との交通路線整備	●			●	→	→	
		環境特化型ツアーの開発	●			●	→	→	
		企業と連携したオリジナルツアーの実施	●		●	●	→		
		モニターツアーの実施	●	●	●	●	→	→	→
	コンベンション誘致に関する交通整備	柏の葉キャンパス駅に快速電車の停車要望	●				→	→	
		ルートを確定した上でバス発着場の整備	●			●	→	→	
		成田・茨城空港への直通バス可能性検討	●			●	→	→	
		羽田空港への直通バスの増便促進	●			●	→	→	
		県民プラザなどへのシャトルバスの検討	●			●	→		
	柏の葉キャンパス駅周辺でのイベントの周知	平成27年TX開通10周年イベント開催	●	●	●	●	→		
		マルシェコロール等のイベント	●	●	●	●	→		
	柏の葉地区を拠点としたインフォメーションセンターの設置	多言語対応インフォメーションセンター設置	●		●	●	→	→	→
		観光ボランティア講座の開催	●	●	●		→		
	柏を訪れる外国人の受け入れ案内整備	外国語表記のパンフレット・HP作成	●	●	●		→	→	→
		外国語表記の案内板やICT活用による案内	●		●	●	→	→	
		通訳ボランディアガイドの育成支援	●	●	●		→	→	
		Wi-Fiの整備	●			●	→	→	
		ホテルでの宗教食の提供促進	●		●	●	→	→	→
	スマートシティツアーの活用	旅行会社と連携してツアー受入態勢整備	●		●	●	→	→	
	大学や企業と連携した観光推進体制の構築	旅行会社との連携によるツアー検討	●			●	→	→	
		専門知識のあるボランティアガイドの育成	●	●	●	●	→		